

BladeSymphony BS500

スタートアップガイド

BS500002-16

登録商標・商標

HITACHI, BladeSymphony, Cosminexus, HiRDB, JP1, Virtage は、(株)日立製作所の商標または登録商標です。

Intel, インテル, Xeon は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft, Windows, Windows Server, Hyper-V は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

発行者情報

株式会社 日立製作所

〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号

発行

2022 年 1 月（第 16 版）

版權

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

Copyright © Hitachi,Ltd.2012,2022,All rights reserved.

目次

はじめに	9
お知らせ	10
重要なお知らせ	10
システム装置の信頼性について	10
規制・対策などについて	10
このマニュアルで使用している記号	11
安全にお使いいただくために	12
安全に関する注意事項	12
安全に関する共通的な注意について	13
操作や動作は	13
自分自身でもご注意を	13
一般的な安全上の注意事項	13
オペレーティングシステム（OS）の略称について	19
 1. 設置の準備	21
1.1 準備するもの	22
1.1.1 システムコンソール	22
1.1.2 LAN ケーブル	23
 2. 初期設定	25
2.1 概要	26
2.2 システムコンソールの設定	26
2.2.1 ネットワーク設定	27
2.2.2 ブラウザ設定	27
2.2.3 LAN ケーブル接続	27
2.3 マネジメントモジュールの設定	28
2.3.1 初期設定手順	28
2.4 スイッチモジュールの設定	39
2.4.1 管理 LAN ポート設定	40
2.4.2 LAN スイッチモジュールの初期設定手順	46
2.4.3 Brocade 10Gb DCB スイッチモジュールの初期設定手順	53
2.4.4 ファイバチャネルスイッチモジュールの初期設定手順	54
 3. システム装置の起動・停止	57
3.1 起動方法	58
3.2 停止方法	58



図目次

図 2-1 初期設定の流れ	26
図 2-2 システムコンソールとマネジメントモジュールの接続	28



表目次

表 1-1 システムコンソールの要件	22
表 2-1 工場出荷時の初期値	29
表 2-2 工場出荷時の初期値	29
表 2-3 工場出荷時の初期値	30
表 2-4 工場出荷時の初期値	46
表 2-5 工場出荷時の初期値	49
表 2-6 工場出荷時の初期値	50
表 2-7 工場出荷時の初期値	51
表 2-8 工場出荷時の初期値	53
表 2-9 工場出荷時の初期値	54



はじめに

マニュアルはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。

このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近なところに保管してください。

- お知らせ
- このマニュアルで使用している記号
- 安全にお使いいただくために
- オペレーティングシステム（OS）の略称について

お知らせ

重要なお知らせ

- ・ 本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複写することは固くお断わりします。
- ・ 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- ・ 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・ この製品には、RSA Data Security からライセンスを受けたコードが含まれています。

システム装置の信頼性について

ご購入いただきましたシステム装置は、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は避けてください。このような使用に対する万一の事故に対し、弊社は一切責任を負いません。

高信頼性を必要とする場合には別システムが必要です。弊社営業部門にご相談ください。

一般事務用システム装置が不適当な、高信頼性を必要とする用途例

- ・ 化学プラント制御・医療機器制御・緊急連絡制御等

規制・対策などについて

電波障害自主規制について

電波障害自主規制については、次の説明文をお読みください。

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
VCCI-A

電源の瞬時電圧低下対策について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

高調波電流規格：JIS C 61000-3-2 準用品について

JIS C61000-3-2 準用品とは、日本工業規格「電磁両立性—第 3-2 部：限度値—高調波電流発生限度値(1 相当りの入力電流が 20A 以下の機器)」を準用し、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

雑音耐力について

本製品の外来電磁波に対する耐力は、国際電気標準会議規格 IEC61000-4-3「放射無線周波電磁界イミュニティ試験」のレベル 2 に相当する規定に合致していることを確認しております。

輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明の場合は弊社担当営業にお問い合わせください。なお、この装置に付属する周辺機器やプレインストールされているソフトウェアも同じ扱いになります。

システム装置の廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンやシステム装置はオフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのシステム装置の中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのシステム装置を譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスクに書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- ・ データを「ゴミ箱」に捨てる
- ・ 「削除」処理を行う
- ・ 「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ・ ソフトで初期化（フォーマット）する

などの作業ををすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。

つまり、一見消去されたように見えますが、Windows®などのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このシステム装置のハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。システム装置ユーザが、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくシステム装置を譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

ハードディスクのデータを消去するユーティリティは、『CLEAR-DA』、『CLEAR-DA RAID』などがあります。詳細は担当営業へお問い合わせください。

制限

『CLEAR-DA』は、CDより起動させて使用します。

本システム装置については、別途USB外付けCD装置が必要となります。

このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、次に示すアイコンを使用します。

アイコン	ラベル	説明
 警告	警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
通知	通知	これは、装置の重大な損傷、または周囲の財物の損傷を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 重要	重要	重要情報や追加情報、および装置やソフトウェアの制限事項を説明します。
 参考	参考	より効率的に業務を行うために、知っておくと役に立つ情報や指針となる情報を説明します。

このマニュアルでは、次に示す記号を使用しています。

記号	意味
[] (角括弧)	GUI 操作の説明 メニュータイトル、メニュー項目、タブ名、およびボタンの名称を示します。メニュー項目を連続して選択する場合は、[] を「-」（ハイフン）でつないで説明しています。 キー操作の説明 キーの名称を示します。
斜体文字	可変値であることを示します。

安全にお使いいただくために

安全に関する注意事項

この項で説明する安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全警告記号と「警告」、「注意」および「通知」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全警告記号です。人への危害をひき起こす隠れた危険に注意を喚起するために用いられます。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルの後に続く安全に関するメッセージに従ってください。



警告

これは、死亡または重大な傷害をひき起こすおそれのある危険の存在を示すのに用いられます。



注意

これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害をひき起こすおそれのある危険の存在を示すのに用いられます。

通知

これは、人身傷害とは関係のない損害をひき起こすおそれのある危険の存在を示すのに用いられます。



【表記例 1】感電注意

⚠の図記号は注意していただきたいことを示し、⚠の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



【表記例 2】分解禁止

⊘の図記号は禁止事項を示し、⊘の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。なお、⊘の中に絵がないものは、一般的な禁止事項を示します。



【表記例 3】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。なお、❗は一般的に行っていただきたい事項を示します。

安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- ・ 操作は、このマニュアル内の指示、手順にしたがって行ってください。
- ・ 本製品やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
- ・ 本製品に搭載または接続するオプションなど、ほかの製品に添付されているマニュアルも参照し、記載されている注意事項を必ず守ってください。

これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。

本製品について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

自分自身でもご注意を

本製品やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示にしたがうだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

一般的な安全上の注意事項

本製品の取り扱いにあたり次の注意事項を常に守ってください。



電源ケーブルの扱い

電源ケーブルは必ず付属のものを使用し、次のことに注意して取り扱ってください。取り扱いを誤ると、電源コードの銅線が露出し、ショートや一部断線で過熱して、感電や火災の原因になります。

- 物を載せない
- 熱器具のそばで使用しない
- 加熱しない
- 束ねない
- 紫外線や強い可視光線を連続して当てない
- コードに傷がついた状態で使用しない
- 高温環境で使用しない
- 定格以上で使用しない
- ほかの装置で使用しない
- 電源プラグを濡れた手で触らない

なお、電源プラグはすぐに抜けるよう、コンセントの周りには物を置かないでください。



電源プラグの接触不良やトラッキング

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因となります。

- 電源プラグは根元までしっかり差し込んでください。
- 電源プラグはほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込んでください。
付着している場合は乾いた布などで拭き取ってから差し込んでください。



電源コンセントの扱い

- 電源コンセントは接地型 2 極差し込みコンセントをご使用ください。その他のコンセントを使用すると感電や火災の原因になります。
- コンセントの接地極は、感電防止のために、アース線を専門の電気技術者が施工したアース端子に接続してください。接続しないと、万一電源の故障時などに感電するおそれがあります。



電源プラグの抜き差し

電源プラグをコンセントに差し込むとき、または抜くときは必ず電源プラグを持って行ってください。電源コードを引っ張るとコードの一部が断線してその部分が過熱し、火災の原因になります。



電源モジュールについて

電源モジュールは、高電圧部分が内部にあるためカバーを開けないでください。感電や装置の故障の原因になります。



電源スロットカバーの取り付け

電源ユニットの取り外し時、手や工具を内部に差し入れないでください。また、取り外し後は電源スロットカバーを取り付けてください。電源スロット内部には導体が露出した部分があり、万一手や工具などで触れると感電や装置の故障の原因になります。



異常な熱さ、煙、異常音、異臭

万一異常が発生した場合は、電源を切り、装置のすべて（最大 4 本）の電源プラグをコンセントから抜いてください。



修理・改造・分解

本書の指示にしたがって行うオプションなどの増設作業を除いては、自分で修理や改造・分解をしないでください。感電や火災、やけどの原因になります。特に電源ユニット内部は高電圧部が数多くあり、万一さわると危険です。



カバー・ブラケットの取り外し

カバー・ブラケットの取り外しは行わないでください。感電ややけど、または装置の故障の原因となります。



電源モジュールのカバーの高温について

電源モジュールは動作時カバーやハンドルが熱くなっています。障害が発生したモジュールを交換する場合などご注意ください。やけどをするおそれがあります。



10GBASE-R トランシーバの高温について

1/10Gbps LAN スイッチモジュールの 10GBASE-R トランシーバは、動作時に熱くなっています。トランシーバの取り外しは、マネジメントモジュールから 10Gbps LAN スイッチモジュールの電源を停止してから約 5 分以上、時間をおいてから行ってください。やけどの原因になります。



装置内部品の追加・交換

電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。本マニュアルで指示のない限り装置内部品の追加・交換は、電源を切った直後約 30 分、時間をおいてから行ってください。やけどの原因になります。



レーザー光について

- 本製品に搭載されているレーザーは、クラス 1 レーザー製品です。レーザー光を直視しないようにしてください。光学器械を用いてレーザー光を見ないようにしてください。
- レーザーモジュールのカバーを外すと、レーザー光が発射されています。使用していないボードのカバーは外さないようにしてください。



製品の取り扱い

- 製品は固定したラックに搭載してください。製品に寄りかかったり、上に乗ったりしないでください。また、床や壁などが弱い場所には設置しないでください。
- 過度な振動は与えないでください。落ちたり倒れたり、故障の原因となります。



ラック搭載について

- システム装置をラックキャビネットに取り付けたり取り外したりする場合は、必ず2人以上で作業を行い、無理をせず器具などを使用してください。また、ラックキャビネットの31U以上にシステム装置を取り付けたり、取り付けられている場合は、作業は行わず、保守員にお任せください。取り付け不備によりシステム装置が落下し、怪我をしたり装置が故障するおそれがあります。
- ラックキャビネットから装置を引き出して作業を行う場合、必ずラックキャビネットにスタビライザーを取り付けてください。無理な力がかかるとラックキャビネットが転倒し、怪我や故障の原因になります。取り付けられていない場合は保守員をお呼びください。



ラックキャビネット搭載時の取り扱い

ラックキャビネット搭載時、装置上面の空きエリアを棚または作業空間として使用しないでください。装置上面の空きエリアに重量物を置くと、落下による怪我の原因となります。



金属など端面への接触

装置の移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、注意して触れてください。けがをするおそれがあります。



不適切なバッテリー

不正な種類のバッテリーと交換すると爆発の危険があります。
使用済みのバッテリーは指示にしたがって廃棄してください。



電池の取り扱い

電池の交換は保守員が行います。交換は行わないでください。また、次のことに注意してください。取り扱いを誤ると過熱・破裂・発火などでけがの原因となります。

- 充電しない
- ショートしない
- 分解しない



バッテリーの保管

バッテリーを保管する際は、バッテリー端子に接着テープを貼付して絶縁してください。絶縁しないと、端子同士の接触によりショートして、過熱や破裂を引き起こすことがあり、怪我や火災につながります。



装置内部への異物の混入

通気孔などから、内部にクリップや虫ピンなどの金属類や燃えやすい物などを入れないでください。そのまま使用すると、故障の原因になります。



落下などによる衝撃

落下させたりぶつけるなど、過大な衝撃を与えないでください。内部に変形や劣化が生じ、そのまま使用すると故障の原因になります。



通気孔

通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。物を置いたり立てかけたりして通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、故障の原因になります。また、通気孔は常にほこりが付着しないよう、定期的に点検し、清掃してください。



接続端子への接触

コネクタなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしないでください。また、金属片のある場所に置かないでください。短絡が起きて故障の原因になります。



温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると装置の故障の原因となります。すぐに電源を入れたりせず、使用する場所で数時間そのまま放置し、室温と装置内温度がほぼ同じに安定してからご使用ください。

たとえば、5℃の環境から 25℃の環境に持ち込む場合、2 時間ほど放置してください。



周辺機器の増設や接続

マニュアルの説明にしたがい、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器をご使用ください。それ以外のものを使用すると、接続仕様の違いにより周辺機器や装置の故障の原因になります。



電波障害について

ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。



強い磁気の発生体

磁石やスピーカーなどの強い磁気を発生するものを近づけないでください。システム装置の故障の原因になります。



ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは精密機械です。ご使用にあたっては、大切に取扱ってください。取り扱い方法によっては、ハードディスク故障の原因になります。



障害ディスクについて

障害ディスクの交換では、操作手順の誤りや交換ディスクの故障などにより、データが破壊されるおそれがあります。交換の前にデータのバックアップを取ってください。



アルミ電解コンデンサ

アルミ電解コンデンサは有寿命部品です。耐用期間を過ぎた製品は使用しないでください。耐用期間を過ぎた製品を使用した場合、電解質の漏洩や消耗により、発煙や感電を引き起こすことがあります。こうした危険な状況を起こさないために、所定の耐用期間を過ぎた有寿命部品は交換してください。



分電盤

分電盤は出入り口付近に設置して、コンピュータシステムのデバイスを保護し、緊急時の電源遮断器として使用してください。



信号ケーブルについて

- 。 ケーブルは足などをひっかけないように配線してください。足をひっかけるとけがや接続機器の故障の原因になります。また、大切なデータが失われるおそれがあります。
- 。 ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因になります。



電源を切る前に

- 。 電源操作は決められた手順にしたがって行ってください。決められた手順に従わずに電源を入れたり切ったりすると、システム装置の故障の原因になります。
- 。 電源を切る前に、装置に接続するすべてのデバイスが停止していることを確認してください。装置の稼働中に電源を切ると、装置が故障したり、データが消えることがあります。
- 。 シャットダウンを必要とする OS を使用している場合は、電源を切る前に必ずシャットダウンを終了してください。シャットダウン終了前に電源を切ると、データが消えることがあります。



ラック搭載時の注意

- **周囲温度の上昇について**

閉鎖型或いはマルチユニット型組み立てラックへ装置を搭載する場合は、装置稼働時のラック内温度が室内周辺温度より高くなる場合があります。装置の最大定格周囲温度を超えないようご注意ください。

- **エアフローの低下について**

装置をラックに搭載する際は、装置の安全稼働に必要なエアフロー量が低下しないようご注意ください。

- **リフターによる搭載について**

装置をリフターでラック搭載する際は、高低差のない水平な場所で作業を行い、危険な状態とならないようご注意ください。

- **過負荷について**

装置への給電を行う際には、過電流による回路の遮断や電源ケーブルの発熱にご注意ください。このため、定格に十分注意して使用することが必要です。

- **接地の接続**

ラック搭載装置は、常に確実なアース接続を行ってください。分岐回路 (例: テーブル タップ) への電源接続で接地接続されない装置では、特にご注意ください。

オペレーティングシステム (OS) の略称について

本マニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

また、Service Pack については記載していません。

- Microsoft® Windows Server® 2016 Standard 日本語版 (以下 Windows Server 2016 Standard)
- Microsoft® Windows Server® 2016 Datacenter 日本語版 (以下 Windows Server 2016 Datacenter)
- Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard 日本語版 (以下 Windows Server 2012 R2 Standard)
- Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Datacenter 日本語版 (以下 Windows Server 2012 R2 Datacenter)
- Microsoft® Windows Server® 2012 Standard 日本語版 (以下 Windows Server 2012 Standard)
- Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter 日本語版 (以下 Windows Server 2012 Datacenter)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 日本語版 (以下 Windows Server 2008 R2 Standard)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 日本語版 (以下 Windows Server 2008 R2 Enterprise)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 日本語版 (以下 Windows Server 2008 R2 Datacenter)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 日本語版 (以下 Windows Server 2008 Standard)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 日本語版 (以下 Windows Server 2008 Enterprise)

- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 日本語版（以下 Windows Server 2008 Datacenter）
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-bit 日本語版（以下 Windows Server 2008 Standard 32-bit）
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-bit 日本語版（以下 Windows Server 2008 Enterprise 32-bit）
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 32-bit 日本語版（以下 Windows Server 2008 Datacenter 32-bit）

なお次のとおり，省略した「OS 表記」は，「対象 OS」中のすべてまたは一部を表すときに用います。

OS 表記	対象 OS
Windows Server 2016	• Windows Server 2016 Standard • Windows Server 2016 Datacenter
Windows Server 2012 R2	• Windows Server 2012 R2 Standard • Windows Server 2012 R2 Datacenter
Windows Server 2012	• Windows Server 2012 Standard • Windows Server 2012 Datacenter
Windows Server 2008 R2	• Windows Server 2008 R2 Standard • Windows Server 2008 R2 Enterprise • Windows Server 2008 R2 Datacenter
Windows Server 2008	• Windows Server 2008 Standard • Windows Server 2008 Enterprise • Windows Server 2008 Datacenter • Windows Server 2008 Standard 32-bit • Windows Server 2008 Enterprise 32-bit • Windows Server 2008 Datacenter 32-bit
Windows Server 2008 64bit 版	• Windows Server 2008 Standard • Windows Server 2008 Enterprise • Windows Server 2008 Datacenter
Windows Server 2008 32bit 版	• Windows Server 2008 Standard 32-bit • Windows Server 2008 Enterprise 32-bit • Windows Server 2008 Datacenter 32-bit

設置の準備

この章では、システム装置を使用する前に準備するものについて説明します。

□ 1.1 準備するもの

1.1 準備するもの

1.1.1 システムコンソール

システムコンソールとして、次の仕様を満たす Personal Computer(PC)を準備してください。

表 1-1 システムコンソールの要件

項目	仕様
Flash player	Adobe® Flash® Player version 10.2 以上 BS500 Web コンソール管理ツールを使用する場合は不要です。
Java software	Oracle Java Version 6(Update 29 以上) Oracle Java Version 7(Update 2 以上) Oracle Java Version 8(Update 45 以上) 各種コンソールを表示する Web ブラウザと同じアーキテクチャ (32bit 版または 64bit 版) の Java VM を使用してください。 一部の構成では OpenJDK を使用した場合の動作も確認しています。詳細は「 <i>BladeSymphony BS500</i> リモートコンソール ユーザーズガイド」を参照してください。
OS	Microsoft® Windows® Red Hat® Enterprise Linux®
Terminal emulator	SSH V2 のターミナルソフトウェア
ブラウザ	Internet Explorer 7 以上 Firefox 3.0 以上 Microsoft Edge (Internet Explorer モード)
ディスプレイ	最小解像度: 1024 x 768 推奨解像度: 1280 x 1024 以上
BS500 Web コンソール管理ツール*1	Web ブラウザを使用しないで、BS500 Web コンソールを使用する場合は必要です。 BS500 Web コンソール管理ツールは、 <i>BladeSymphony</i> ホームページからダウンロードしてください。 Flash player のサポート終了以降に BS500 Web コンソールを使用する場合は、必須となります。

注※1

BS500 Web コンソール管理ツールを使用する場合は、マネジメントモジュールファームウェアを A0330 以降にアップデートする必要があります。

BS500 Web コンソール管理ツールは、以下の手順でダウンロードとインストールを実施してください。

- BladeSymphony* ホームページからダウンロードしてください。

BladeSymphony ホームページ：

<http://www.hitachi.co.jp/products/ bladesymphony/>

検索方法は、「ドライブ・ユーティリティ ダウンロード」のページにて「キーワードで検索」で次の条件で検索してください。

装置：BladeSymphony

キーワード：BS500 Web コンソール管理ツール

- ダウンロードした BS500 Web コンソール管理ツールの説明書に従って、システムコンソールにインストールしてください。インストール後、デスクトップにショートカットアイコンを作成して、ショートカットアイコンを使って BS500 Web コンソール管理ツールを起動してください。

1.1.2 LAN ケーブル

カテゴリ-5 以上の規格に対応した LAN ケーブルを準備してください。

初期設定

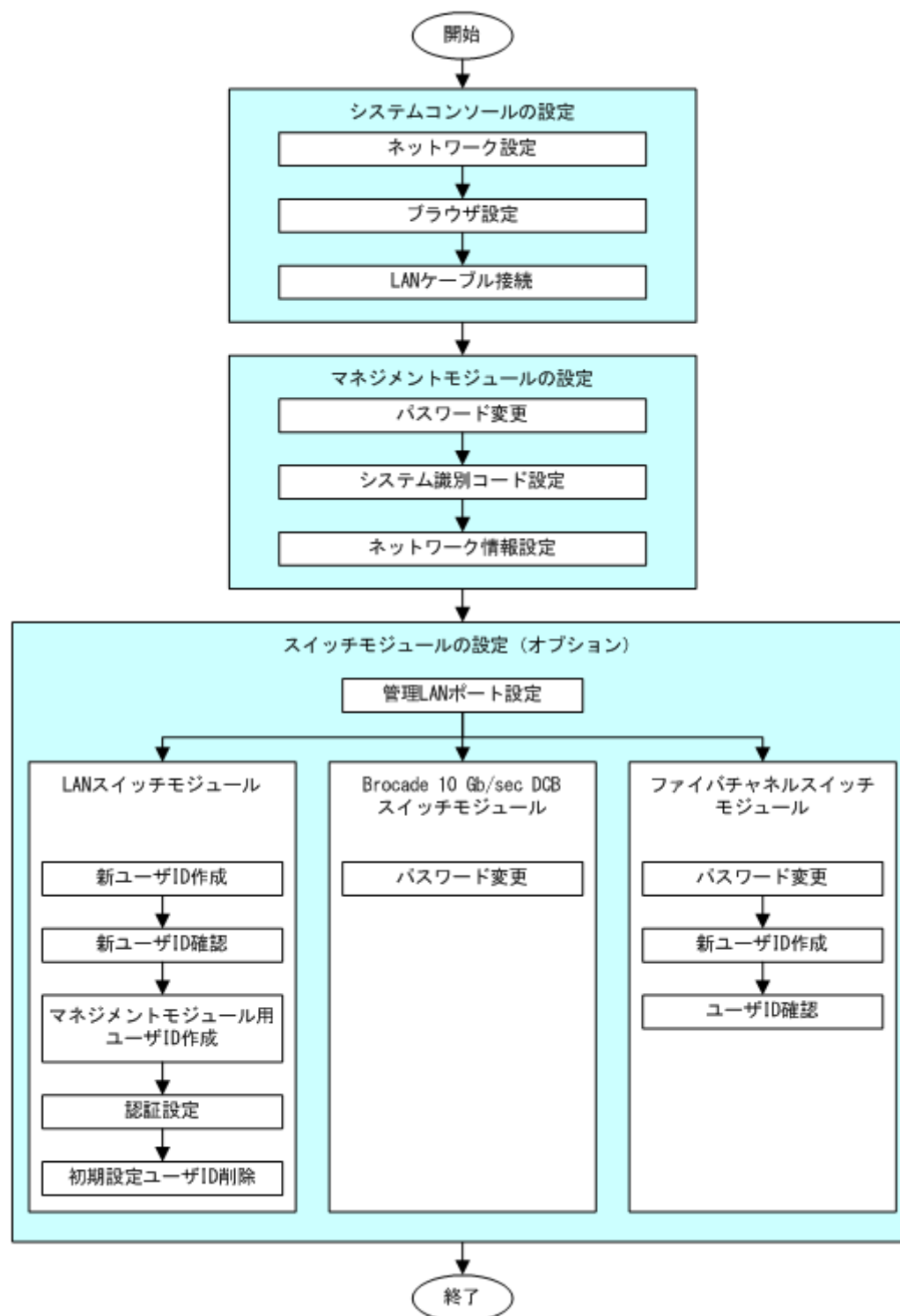
この章では、システム装置をご使用になる前の初期設定について説明します。

- [2.1 概要](#)
- [2.2 システムコンソールの設定](#)
- [2.3 マネジメントモジュールの設定](#)
- [2.4 スイッチモジュールの設定](#)

2.1 概要

初期設定の流れは次の図のとおりです。

図 2-1 初期設定の流れ



2.2 システムコンソールの設定

システムコンソールはシステム装置のユーザインターフェースとして使用します。

システムコンソールをシステム装置に接続するためには、ネットワーク設定とブラウザ設定が必要です。

ここでは、システムコンソールを使用するために必要な設定と接続を説明します。

2.2.1 ネットワーク設定

お使いのネットワーク環境に合わせて、IP アドレス、サブネットマスク (IPv6 はプレフィックス)、デフォルトゲートウェイを設定してください。

なお、設定方法については、システムコンソールにインストールされている OS のマニュアルを参照してください。

2.2.2 ブラウザ設定

次のようにブラウザを設定してください。

- ポップアップブロックを無効にしてください。
無効にしないと、予期しない動作をする場合があります。
- クッキーの使用を有効にしてください。
有効にしないと、マネジメントモジュールの Web コンソールにログインできません。
- 接続先モジュールの IP アドレスを「信頼済みサイト」に追加してください。
追加しない場合、接続が拒否されることがあります。

ブラウザの設定方法については、ブラウザのマニュアルを参照してください。

2.2.3 LAN ケーブル接続

システムコンソールとマネジメントモジュールを、LAN ケーブルで接続してください。

- システム装置が管理ネットワークに接続されている場合
システムコンソールの LAN ポートとマネジメントモジュールの管理 LAN ポート#0 (MGMT0) を、管理ネットワークに接続してください。

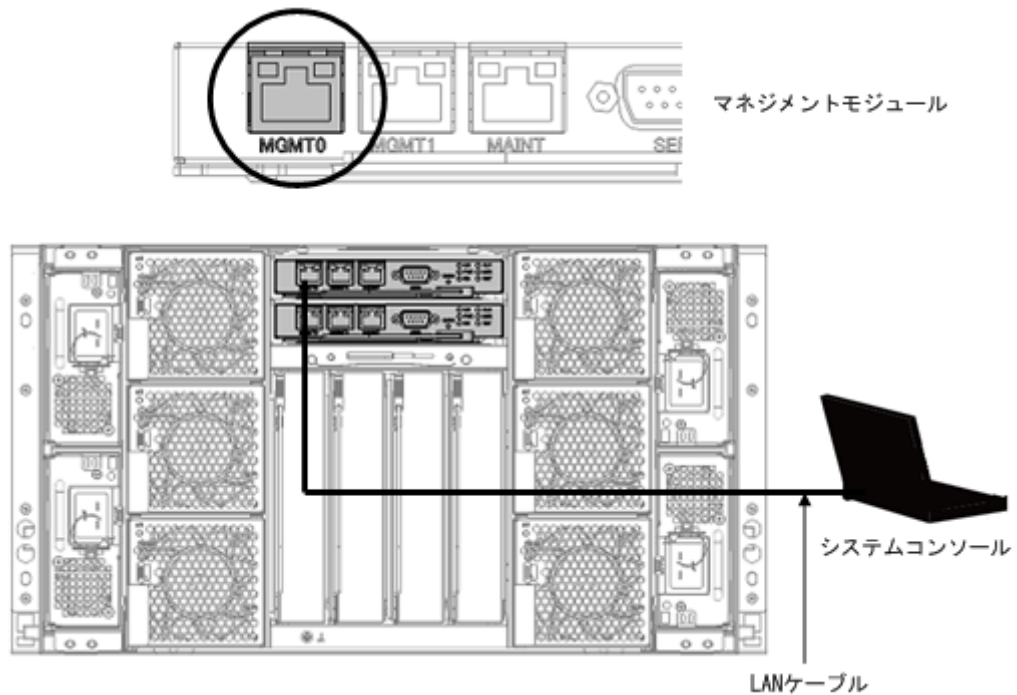


重要 マネジメントモジュールの IP アドレスは、装置出荷時点で全ての装置が 192.168.0.1 となっています。IP アドレス変更前の装置を、複数同時に管理ネットワークに接続すると、IP アドレスが重複し、ネットワーク障害を引き起こす可能性があります。

管理ネットワークに接続する際は、必ず装置をひとつずつ接続し、IP アドレスを変更してから次の装置を接続してください。詳細は「[2.3 マネジメントモジュールの設定](#)」を参照してください。

- システム装置が管理ネットワークに接続されていない場合
システムコンソールの LAN ポートと、マネジメントモジュールの管理 LAN ポート#0 (MGMT0) を直接接続してください。

図 2-2 システムコンソールとマネジメントモジュールの接続



参考 以降の初期設定で LAN ケーブルの接続が必要です。

2.3 マネジメントモジュールの設定

マネジメントモジュールは、システム装置の管理を行うハードウェアです。

次に示す項目を設定してください。

- パスワード変更
システム管理者のユーザ ID のパスワードを変更してください。
- システム識別コード設定
サーバシャーシを識別するためのシャーシ ID を設定してください。
- ネットワーク情報設定
ネットワーク情報(IP アドレス, サブネットマスク (IPv6 はプレフィックス), デフォルトゲートウェイ)を設定してください。

2.3.1 初期設定手順

マネジメントモジュールの初期設定手順を示します。

(1) ログイン

1. Web コンソールに接続します。
 - Web ブラウザから Web コンソールを使用する場合

システムコンソールの Web ブラウザを起動して、Web ブラウザのアドレスバーにマネジメントモジュールの Web コンソールの URL（工場出荷時の場合は https://192.168.0.1/）を入力します。



表 2-1 工場出荷時の初期値

項目	工場出荷時の初期値
マネジメントモジュールの IP アドレス	192.168.0.1
Web コンソールの URL	https://192.168.0.1/

参考

- 上記の URL はデフォルト設定の例です。デフォルトで使用する場合、IP アドレスの入力のみでポート番号の入力は省略できます。マネジメントモジュールの IP アドレスおよびポート番号を変更した場合は、設定に合わせて URL を入力してください。
- URL のフォーマットは次のとおりです。
http://< IP アドレス>:< ポート番号> または
https://< IP アドレス>:< ポート番号>
- デフォルトのポート番号は次のとおりです。
http : 80
https : 443

。 BS500 Web コンソール管理ツールを使用する場合

BS500 Web コンソール管理ツールを起動後、マネジメントモジュールの IP アドレスと https で接続するポート番号を入力して、「connect」ボタンをクリックします。

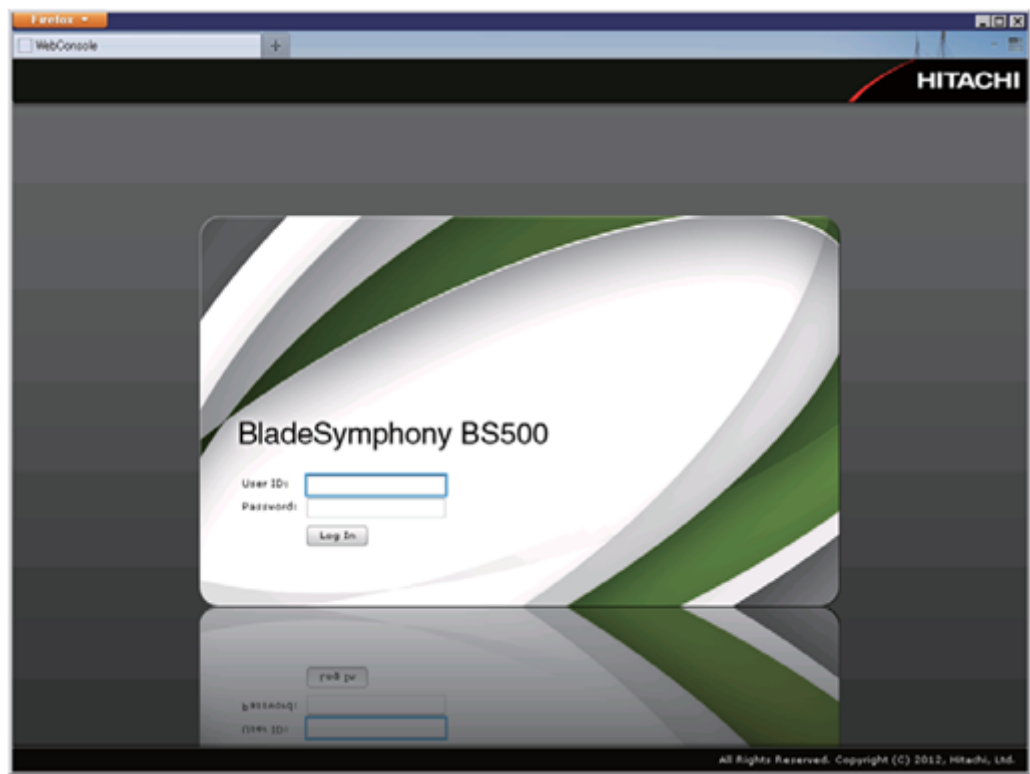


表 2-2 工場出荷時の初期値

項目	工場出荷時の初期値
マネジメントモジュールの IP アドレス	192.168.0.1
https で接続するポート番号	443
http で接続するポート番号	80

参考 BS500 Web コンソール管理ツールのバージョンが 1.0.4 以降の場合、http で接続するポート番号を入力し、http を選択することで、http で接続することができます。

2. 接続に成功すると、次のログイン画面が表示されます。



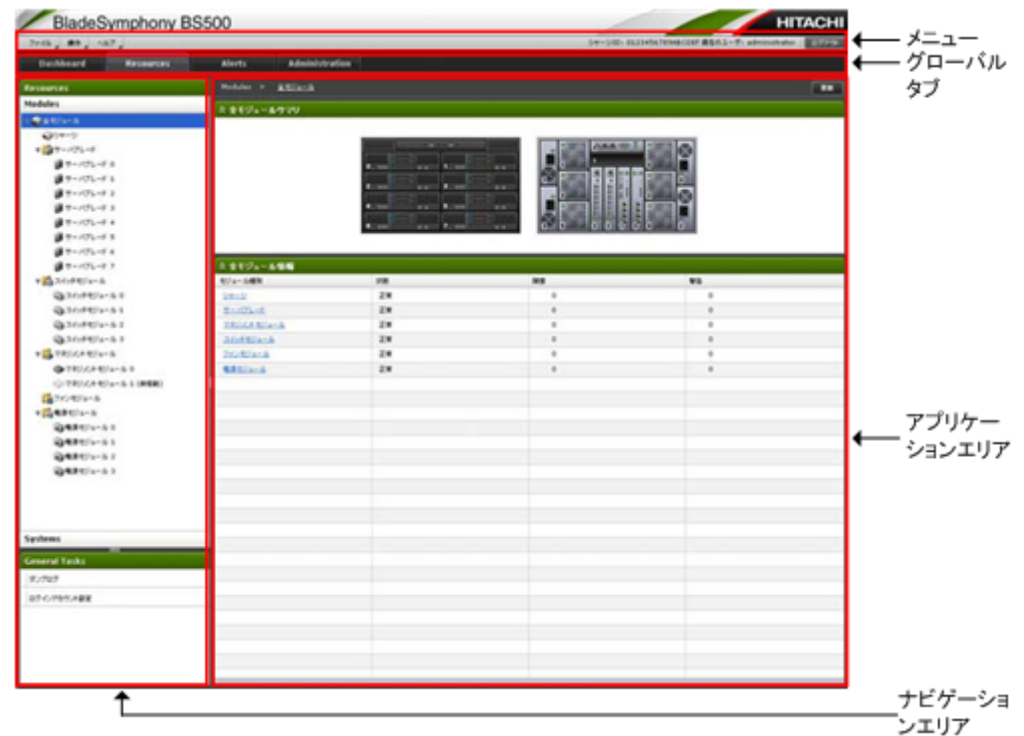
3. システム管理者のユーザ ID とパスワードは、工場出荷時の初期値で設定されています。
次の表に示す値を入力してください。

表 2-3 工場出荷時の初期値

項目	工場出荷時の初期値
ユーザ ID	administrator
パスワード	password

4. ログインに成功すると、次の Web コンソールメニュー画面が表示されます。

次の画面は「Resources」タブの例です。

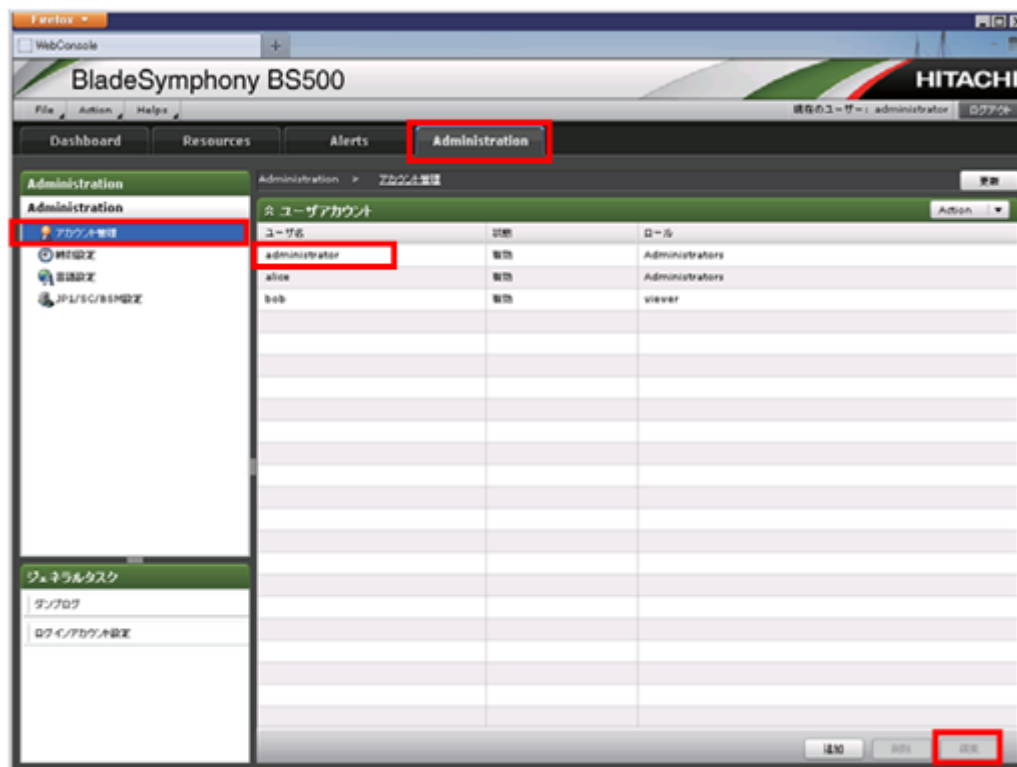


項目	内容
メニュー	Web コンソールのメニューを表示します。
グローバルタブ	Dashboard タブ、Resources タブ、Alerts タブ、Administration タブを表示します。
ナビゲーションエリア	設定・操作の対象となるモジュール、機能をつリー形式で表示します。
アプリケーションエリア	ナビゲーションエリアで選択したモジュールまたはツリーの詳細を表示します。

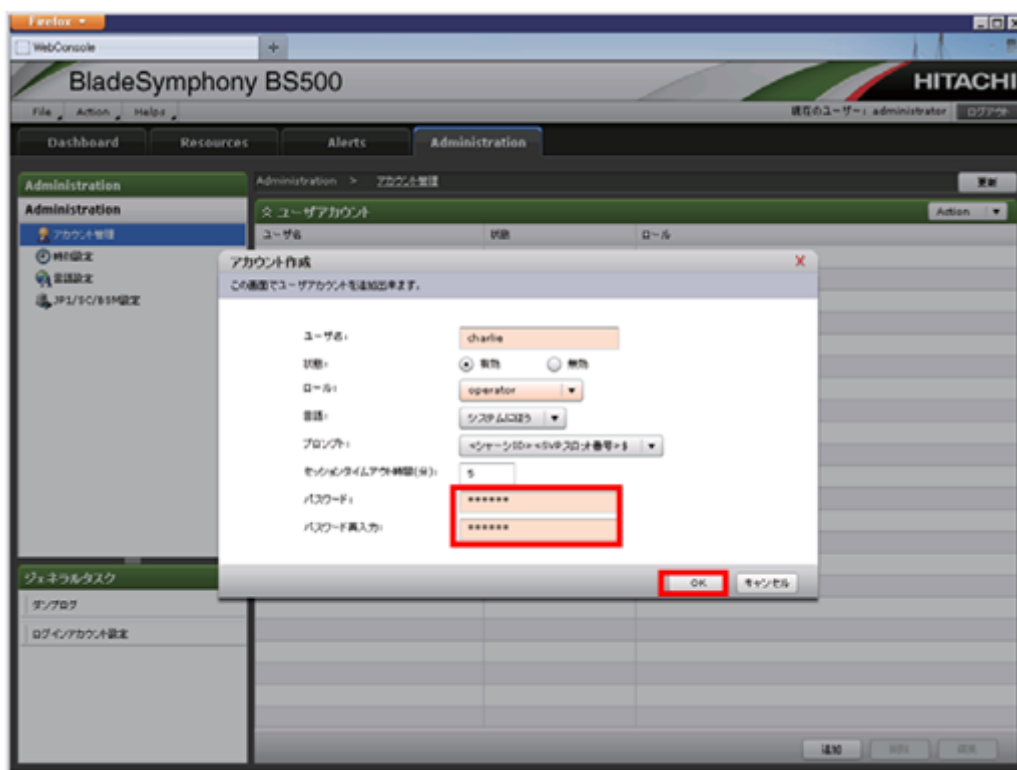
(2) パスワード変更

システム管理者のパスワードを、工場出荷時の初期値から変更します。

1. メニュー画面の [Administration] タブのメニューツリーから [アカウント管理] を選択し、ユーザ ID [administrator] を選択して [編集] ボタンをクリックしてください。



2. システム管理者のパスワードを変更し、[OK] ボタンをクリックしてください。



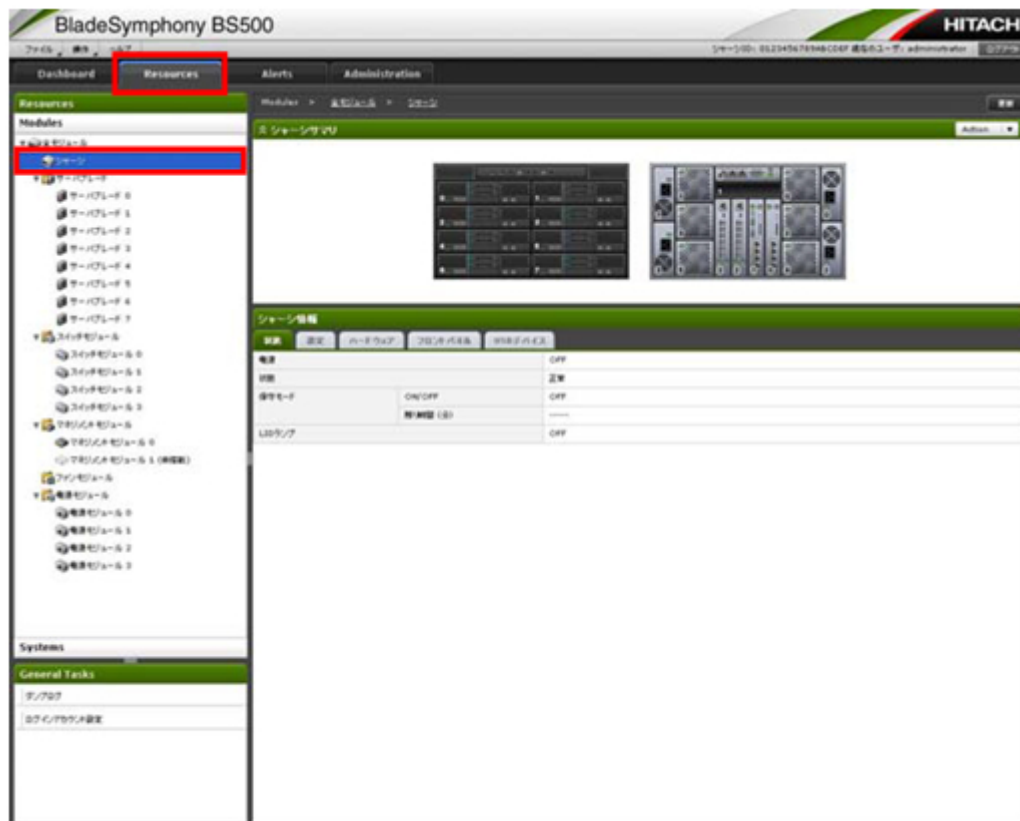
参考 セキュリティのため、システム管理者パスワードの変更を強く推奨します。

(3) システム識別コード設定

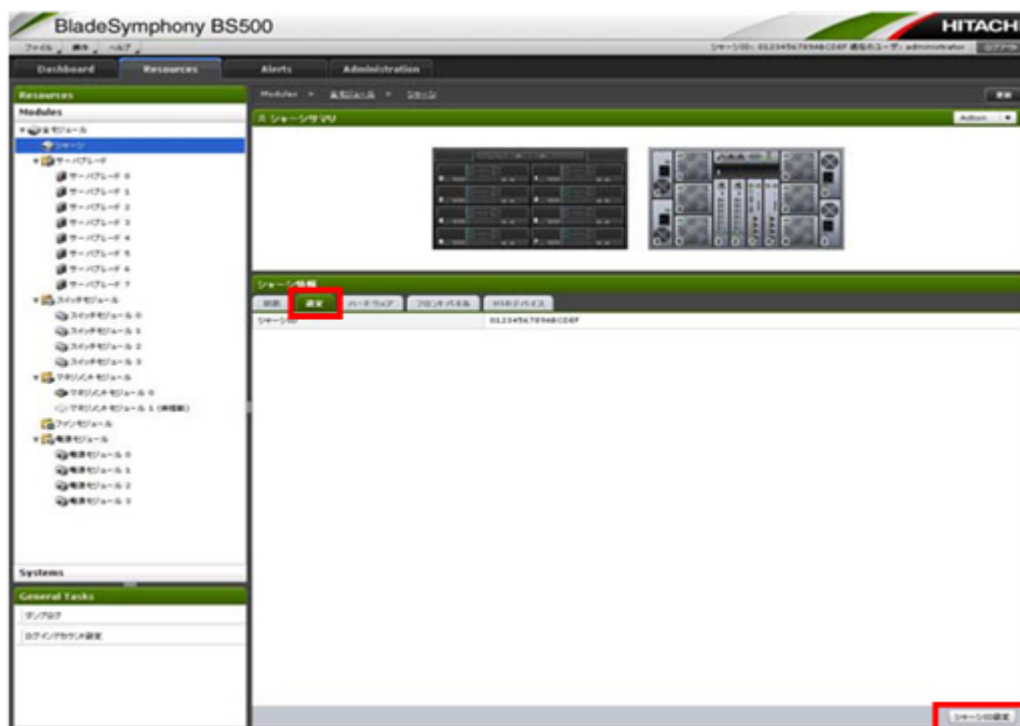
システム識別コード(シャーシ ID)は、サーバシャーシを識別する ID です。

シャーシ ID の初期値は、サーバシャーシのシリアル番号を設定しています。ご使用の環境に最適なシャーシ ID への変更を推奨します。シャーシ ID は、ご使用のサーバシャーシごとに固有の値を設定してください。

1. メニュー画面の [Resources] タブのメニューツリーから [シャーシ] を選択してください。



2. [設定] タブを選択し、[シャーシ ID 設定] ボタンをクリックしてください。



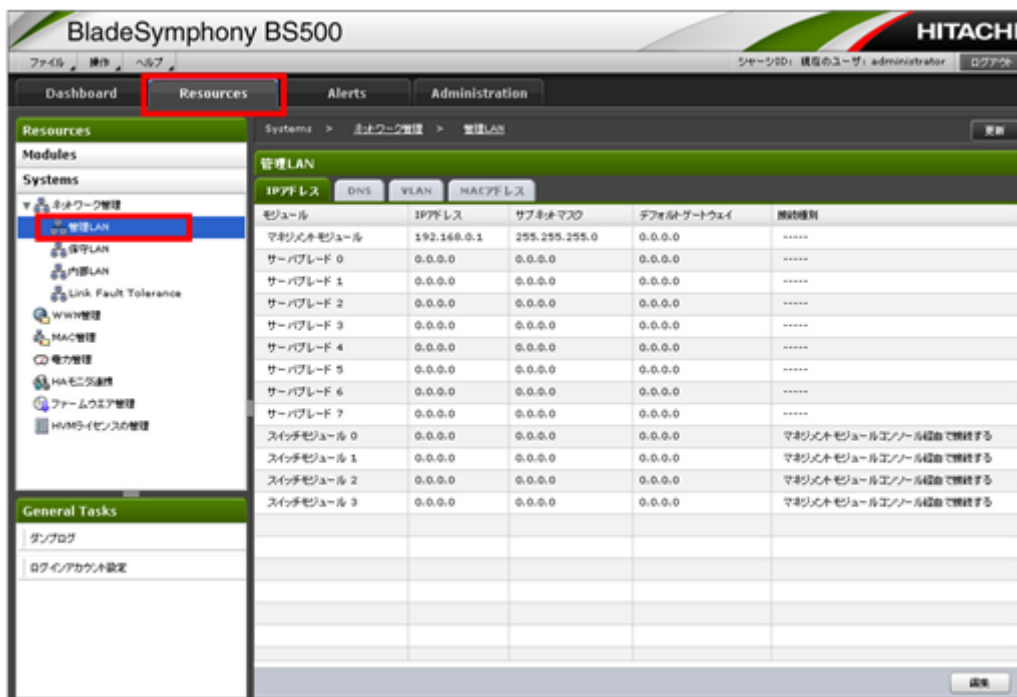
3. [シャシー設定] ダイアログボックスが表示されますので、新しいシャシー ID を入力し、[OK] ボタンをクリックしてください。



(4) ネットワーク情報設定

ご使用の環境に合わせて、ネットワーク情報を設定します。IPv6 環境で運用する場合も、IPv4 アドレスの設定が必要となります。以下に、IPv4 アドレスの設定方法を記載します。IPv6 アドレスの設定は、同様の方法で「IPv6 アドレス」タブで設定してください。

1. メニュー画面の [Resources] タブのメニューツリーから [Systems] - [管理 LAN] を選択してください。



2. [IP アドレス] タブを選択し、[編集] ボタンをクリックしてください。

BladeSymphony BS500

システム > ネットワーク管理 > 管理LAN

管理LAN

IPアドレス DNS VLAN MACアドレス

モジュール	IPアドレス	サブネットマスク	デフォルトゲートウェイ	接続優先度
マネジストモジュール	192.168.0.1	255.255.255.0	0.0.0.0	-----
サーバブレード 0	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	-----
サーバブレード 1	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	-----
サーバブレード 2	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	-----
サーバブレード 3	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	-----
サーバブレード 4	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	-----
サーバブレード 5	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	-----
サーバブレード 6	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	-----
サーバブレード 7	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	-----
スイッチモジュール 0	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	マネジストモジュールコントロール経由で接続する
スイッチモジュール 1	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	マネジストモジュールコントロール経由で接続する
スイッチモジュール 2	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	マネジストモジュールコントロール経由で接続する
スイッチモジュール 3	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	マネジストモジュールコントロール経由で接続する

General Tasks

ダウンロード

ログイン/パスワード設定

編集

3. [IP アドレス設定]ダイアログボックスで、マネジメントモジュールの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力し、[確認]ボタンをクリックしてください。

IPアドレス設定

管理LANネットワークのIPアドレスを設定します。

管理LAN設定

⌵ マネジメントモジュール

IPアドレス: 192.168.0.1

サブネットマスク: 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ: 0.0.0.0

⌵ サーバブレード 連番自動入力

サーバブレード 0

IPアドレス: 192.168.0.110

サブネットマスク: 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ: 0.0.0.0

サーバブレード 1

IPアドレス: 192.168.0.111

サブネットマスク: 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ: 0.0.0.0

サーバブレード 2

IPアドレス: 192.168.0.112

サブネットマスク: 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ: 0.0.0.0

サーバブレード 3

IPアドレス: 192.168.0.113

サブネットマスク: 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ: 0.0.0.0

サーバブレード 4

IPアドレス: 192.168.0.114

サブネットマスク: 255.255.255.0

確認 キャンセル

4. 確認ダイアログボックスが表示されるので、設定情報を確認し、[OK] ボタンをクリックしてください。



確認

IPアドレス設定

IPアドレスを編集します。
実行するとネットワークが切断される可能性があります。
よろしければ[OK]ボタンを押してください。

管理LAN設定

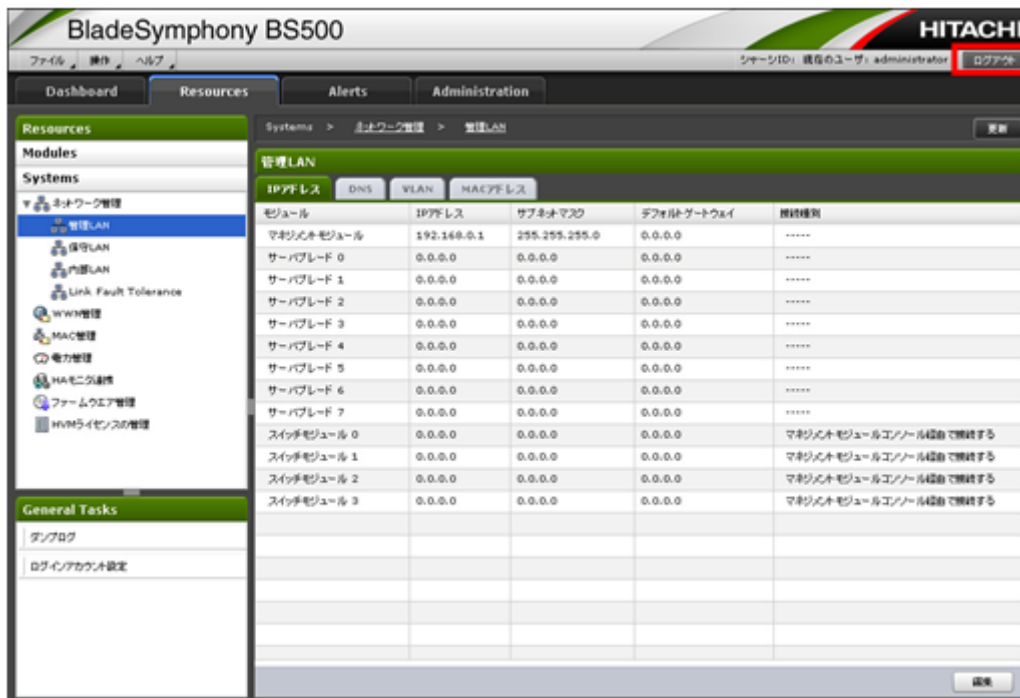
管理LAN設定	IPアドレス	サブネットマスク	デフォルトゲートウェイ
マネジメントモジュール	192.168.0.1	255.255.255.0	0.0.0.0
サーバブレード 0	192.168.0.110	255.255.255.0	0.0.0.0
サーバブレード 1	192.168.0.111	255.255.255.0	0.0.0.0
サーバブレード 2	192.168.0.112	255.255.255.0	0.0.0.0
サーバブレード 3	192.168.0.113	255.255.255.0	0.0.0.0
サーバブレード 4	192.168.0.114	255.255.255.0	0.0.0.0
サーバブレード 5	192.168.0.115	255.255.255.0	0.0.0.0
サーバブレード 6	192.168.0.116	255.255.255.0	0.0.0.0
サーバブレード 7	192.168.0.117	255.255.255.0	0.0.0.0

戻る OK キャンセル

参考 マネジメントモジュールの IP アドレスを変更すると、Web コンソールに接続できなくなります。変更後の IP アドレスを使用して、Web コンソールに再度接続してください。

(5) ログアウト

1. メニュー画面の「ログアウト」ボタンをクリックしてください。

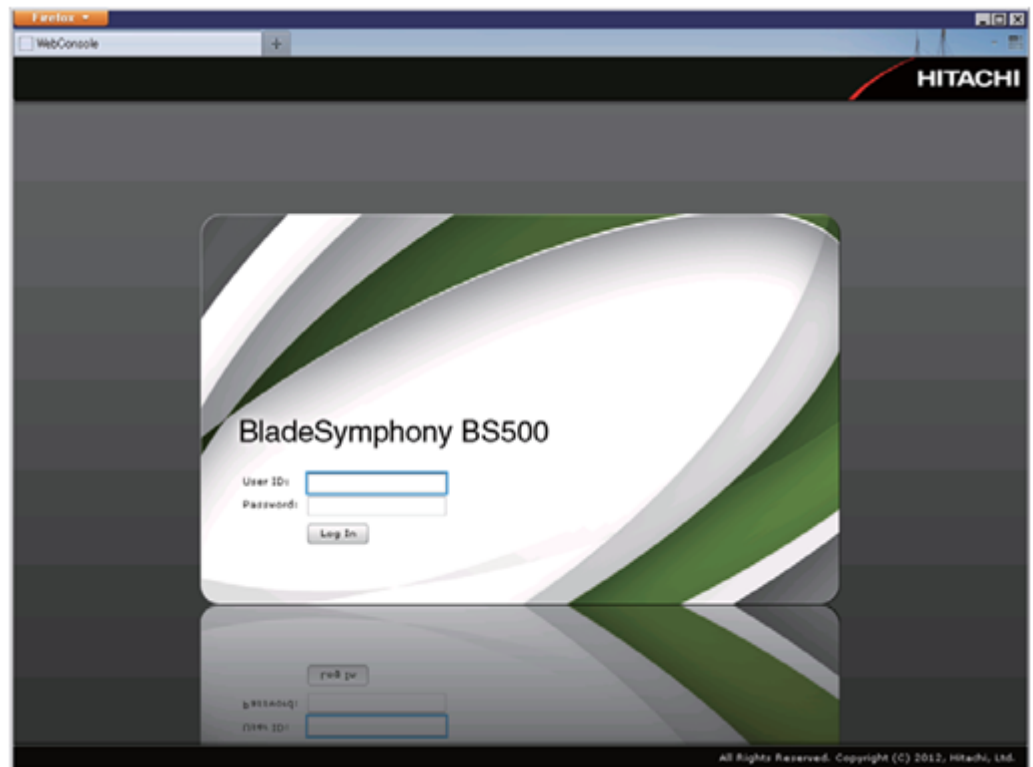


2. 「ログアウト」ダイアログボックスの「OK」ボタンをクリックしてください。



3. Web ブラウザから Web コンソールを使用する場合は、ログアウトに成功するとログイン画面が表示されます。設定を終了する場合は、Web ブラウザを終了してください。BS500 Web コン

ソール管理ツールを使用する場合は、BS500 Web コンソール管理ツールが終了して、ウィンドウが閉じます。



2.4 スイッチモジュールの設定

スイッチモジュールを用いることで、サーバシャーシ内外のノード間で効率よくネットワーク通信できます。

参考 ノードとは、接続点(データ伝送の送信ポイントまたは終了ポイント)のことです。

スイッチモジュールには次の種類があります。

- LAN スイッチモジュール
- Brocade 10Gb DCB スイッチモジュール
- ファイバチャネルスイッチモジュール
 - Brocade 8Gb ファイバチャネルスイッチモジュール
 - Brocade 8/16Gb ファイバチャネルスイッチモジュール
 - Brocade 16Gb ファイバチャネルスイッチモジュール

これらのスイッチモジュールでは、ご使用前にいくつかの設定が必要です。

- 管理 LAN ポート設定
管理 LAN ポートを設定してください。
- パスワード変更
システム管理者のユーザ ID(admin)のパスワードを変更してください。
- 新ユーザ ID 作成
新しいユーザ ID を設定してください。

ここでは、必要な初期設定について説明します。

2.4.1 管理 LAN ポート設定

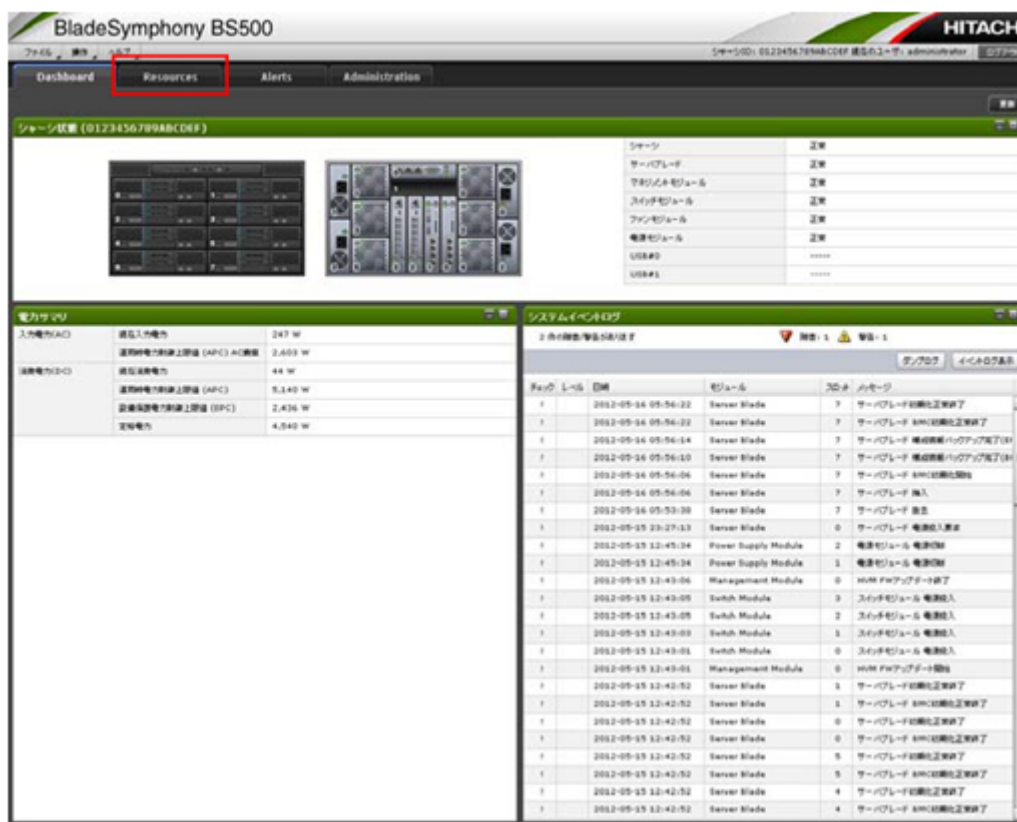
各スイッチモジュールの管理 LAN ポートを、 マネジメントモジュールの管理 LAN ポート #0(MGMT0)に論理的に接続します。

参考 次の手順は、スイッチモジュール 0 の管理 LAN ポートを設定する例です。マネジメントモジュールの管理 LAN ポートと接続できるのは、IPv4 アドレスのみです。

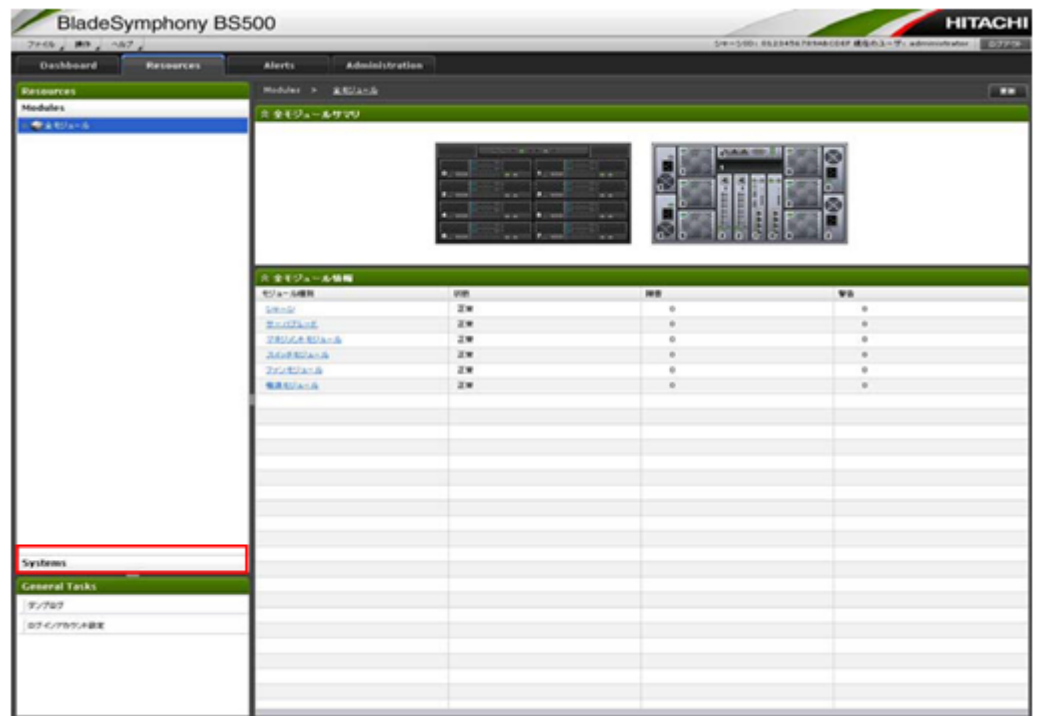
1. マネジメントモジュールの Web コンソールにログインしてください。

参考 ログイン方法は「2.3 マネジメントモジュールの設定」 「2.3.1 初期設定手順」の「(1) ログイン」を参照してください。

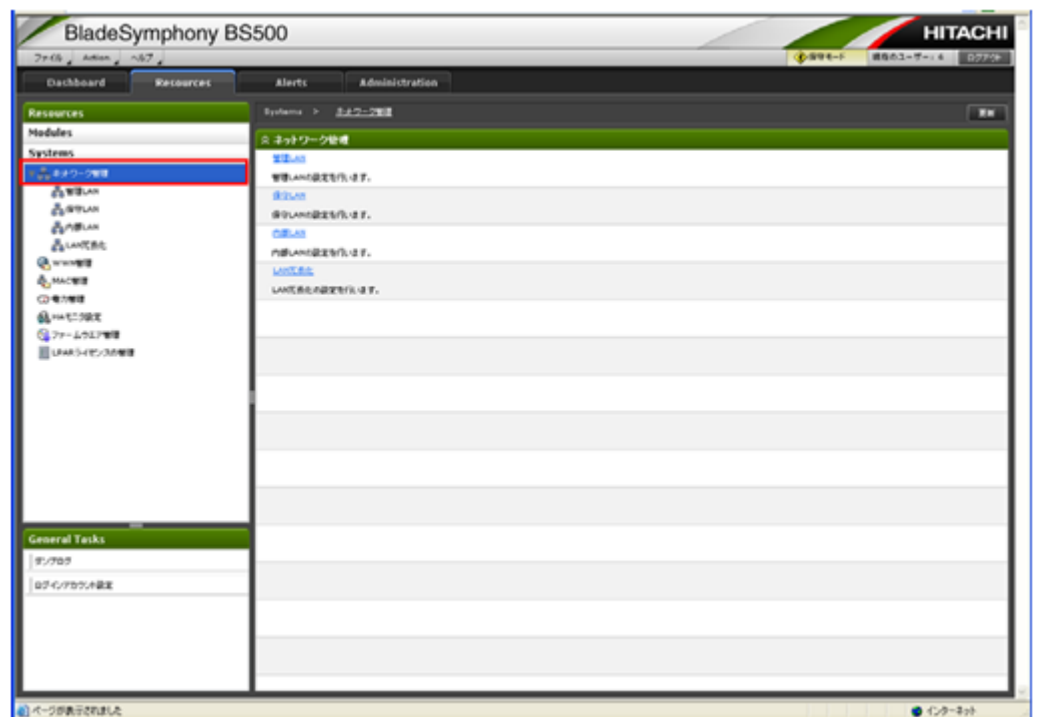
2. ログインに成功すると、Web コンソールメニュー画面が表示されますので、[Resources] タブをクリックします。



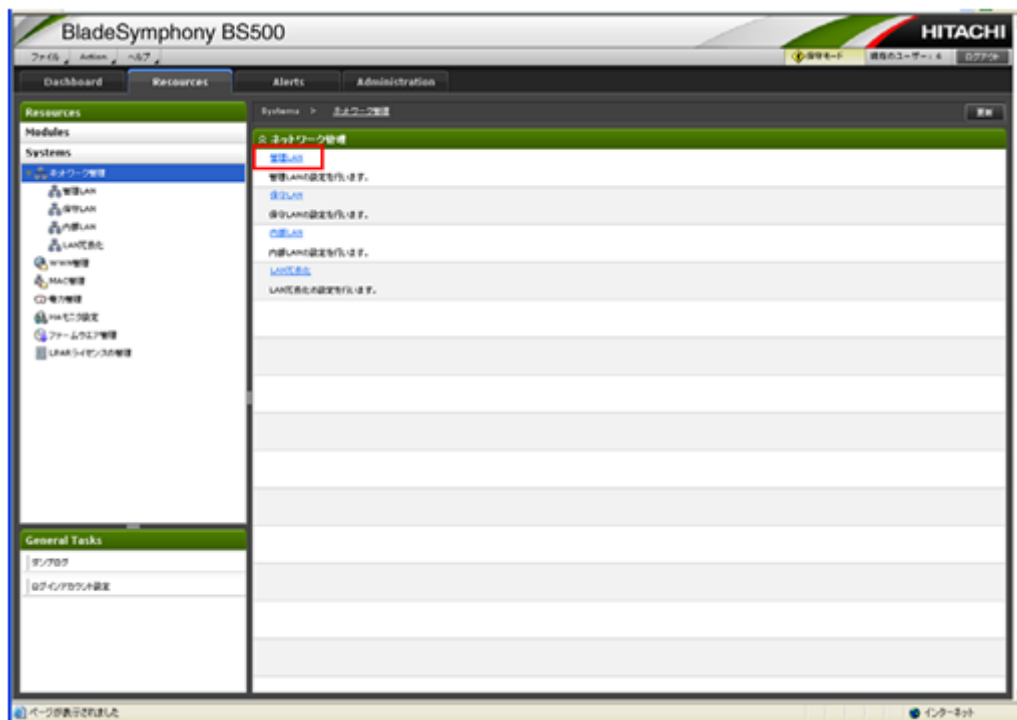
3. [Systems]タブをクリックします。



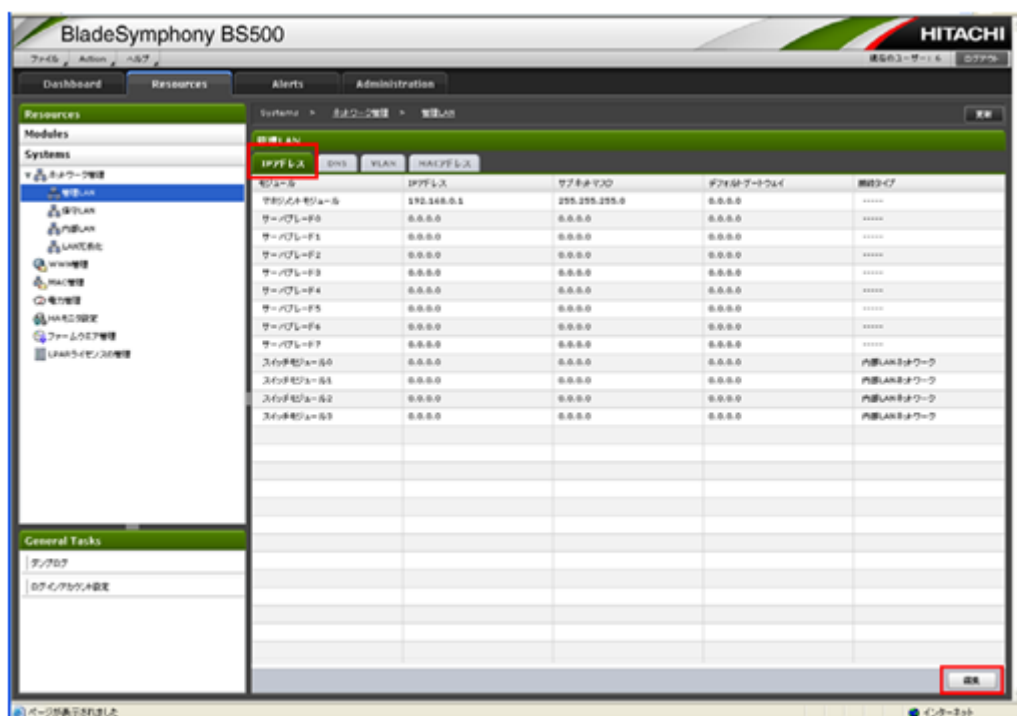
4. [ネットワーク管理]タブをクリックします。



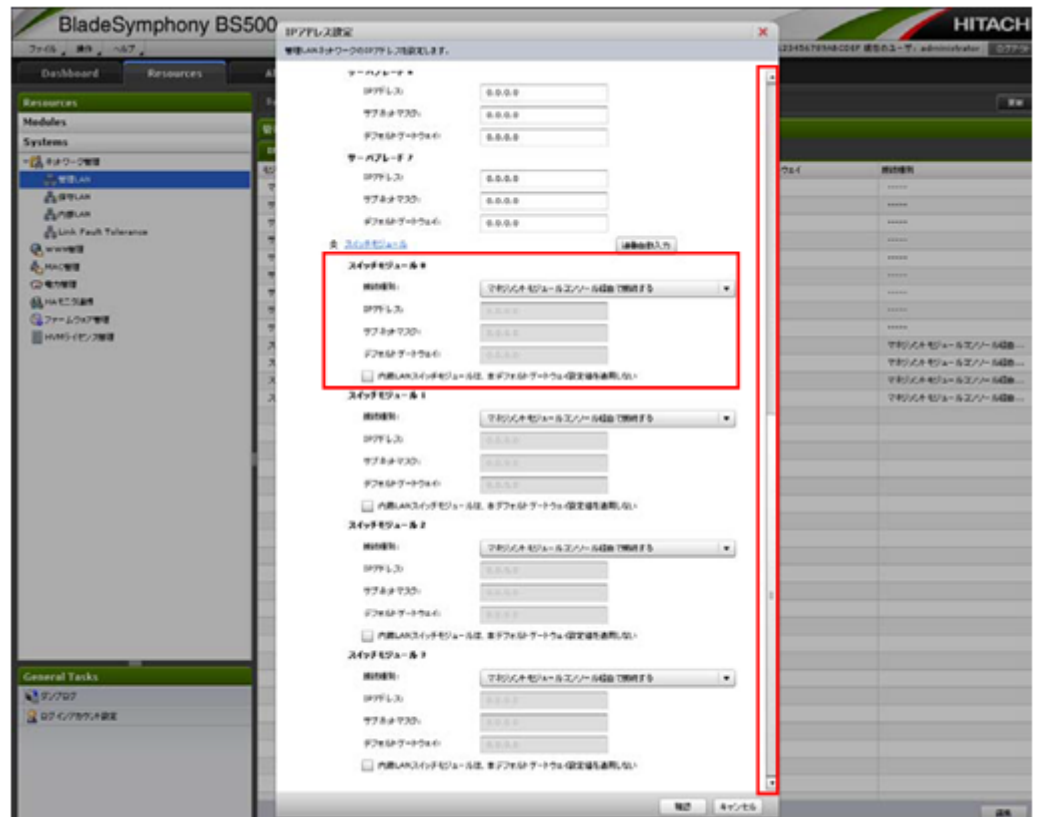
5. [管理 LAN]をクリックします。



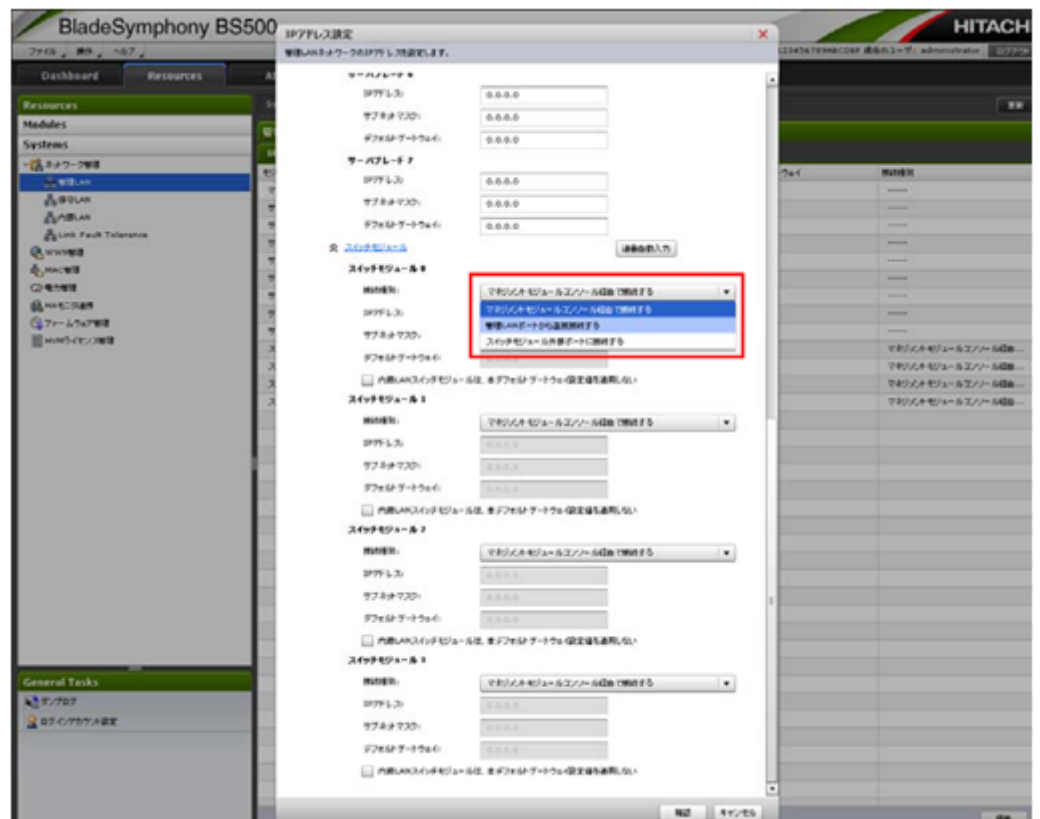
6. [IP アドレス]タブの[編集]ボタンをクリックします。



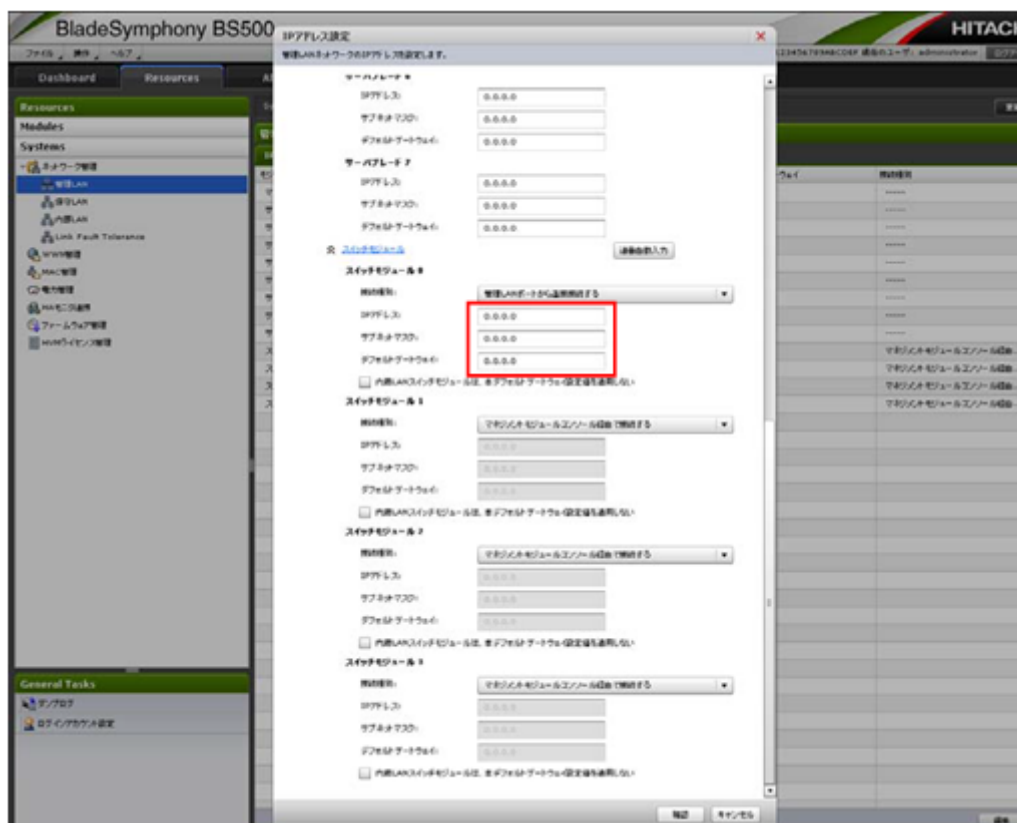
7. [IP アドレス設定]ダイアログボックスのスクロールバーをスライドさせて、スイッチモジュール 0 を表示します。



8. スイッチモジュール 0 の[接続種別]の[▼]をクリックし、[管理 LAN ポートから直接接続する]を選択します。



9. スイッチモジュール 0 の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。



重要

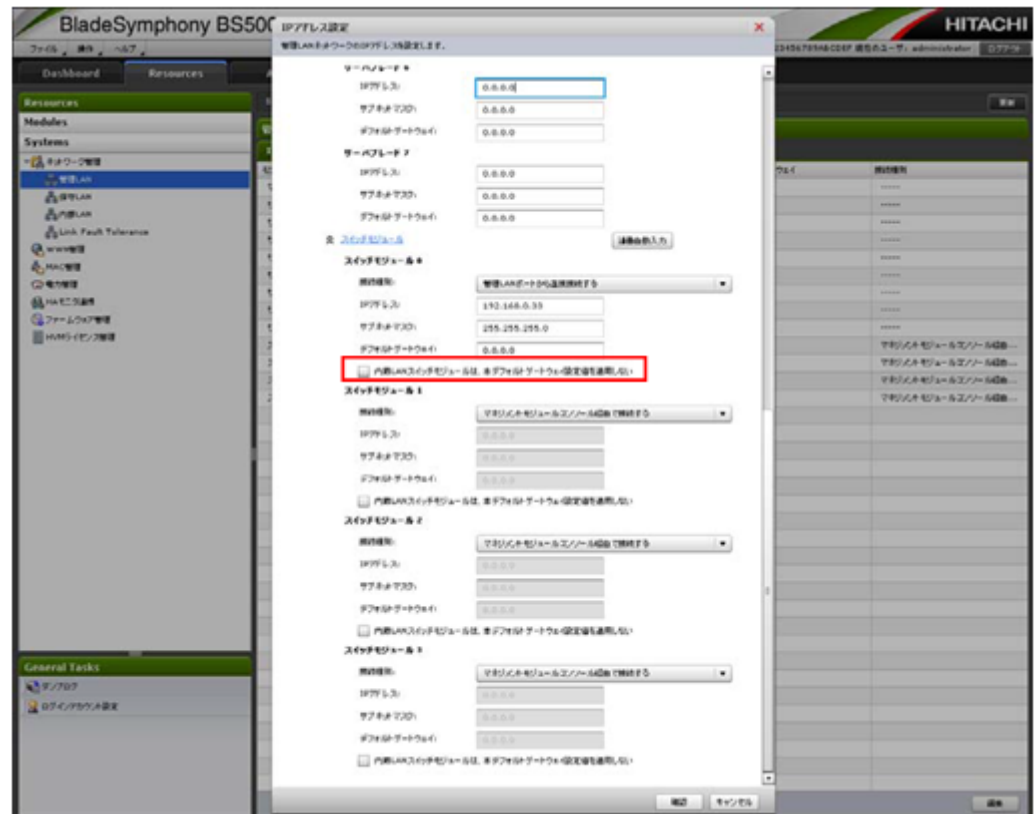
- ・ マネジメントモジュールのファームウェアバージョンが A0125 以前の場合、デフォルトゲートウェイ設定は内蔵 LAN スイッチモジュールに反映されません。

内蔵 LAN スイッチモジュールのコンソールに直接ログインして、デフォルトゲートウェイを設定してください。

- ・ Brocade 10Gb DCB スイッチモジュールの Network OS が Ver.3.0.0 の場合、マネジメントモジュールからのデフォルトゲートウェイ設定は、DCB スイッチモジュールに反映されません。DCB スイッチモジュールにログインし、ip route コマンドを使って設定してください。

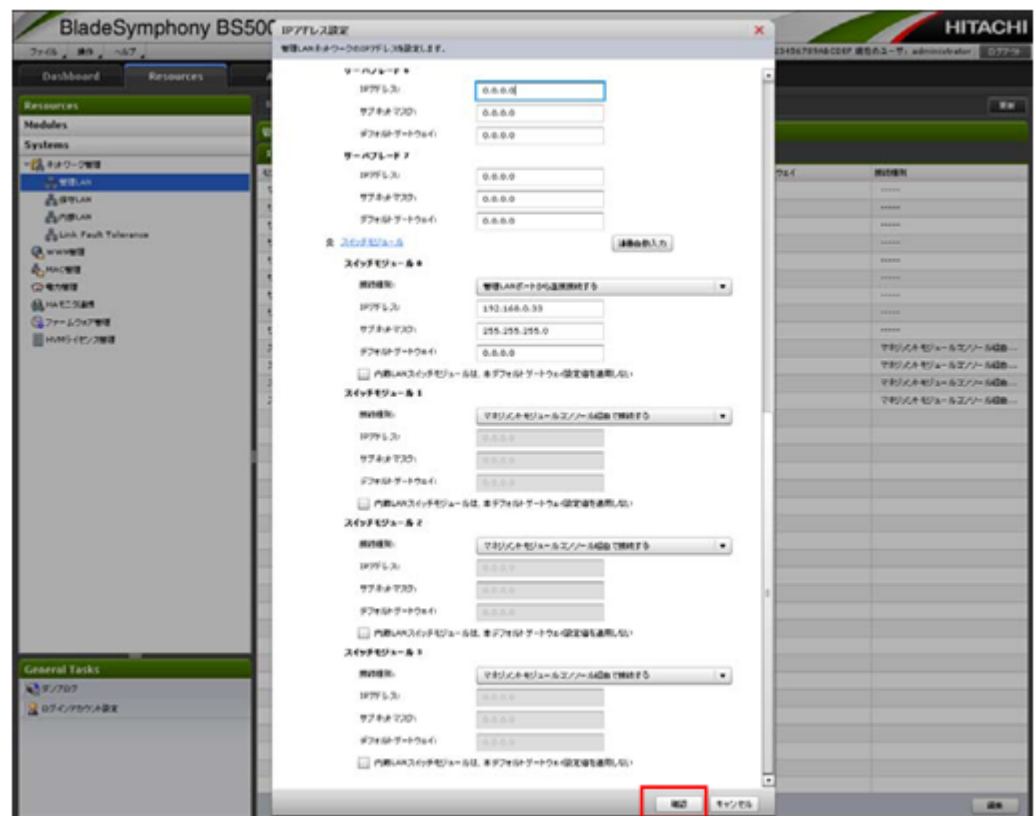
設定方法については、「Network OS 管理者ガイド」を参照してください。なお、Network OS が Ver.2.0.1 の場合は、デフォルトゲートウェイの設定はできません。

10. 『内蔵 LAN スイッチモジュールは、本デフォルトゲートウェイ設定値を適用しない』のチェックを外します。



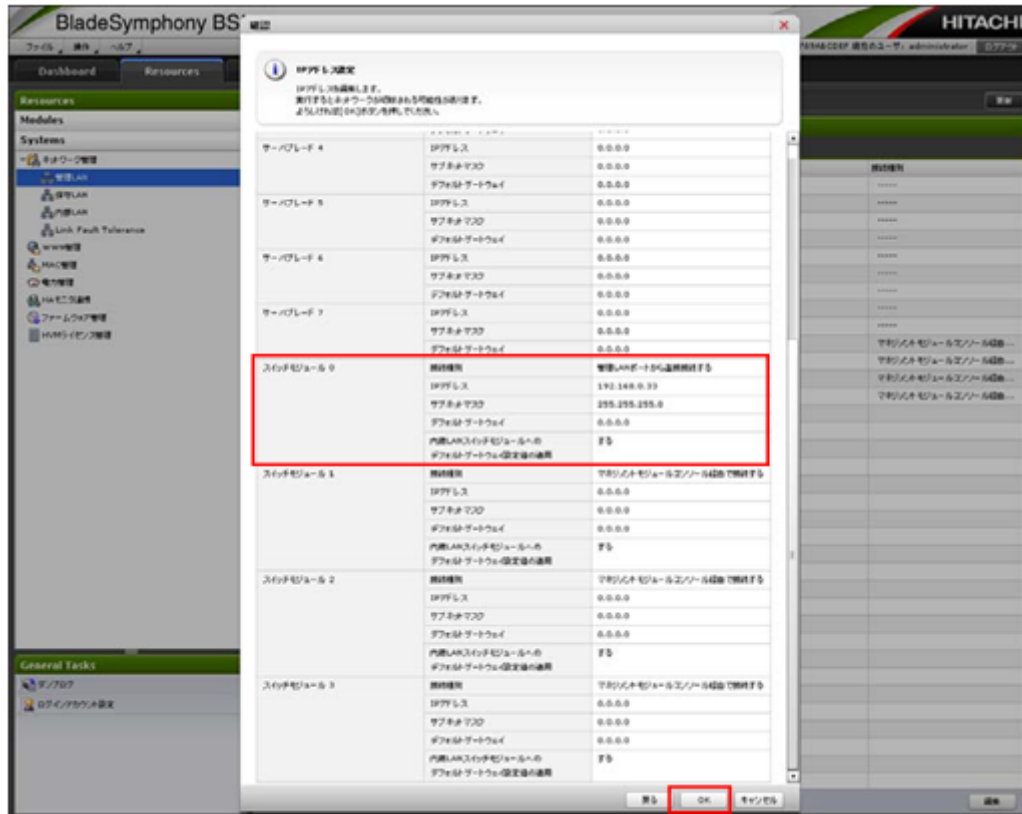
参考 マネジメントモジュールのファームウェアバージョンが A0125 以前の場合、本項目は表示されません。次の手順へ進んでください。

11. [確認]ボタンをクリックします。



重要 Brocade 8/16Gb ファイバチャネルスイッチモジュール、および Brocade 16Gb ファイバチャネルスイッチモジュールでは、IP アドレスの設定に失敗する場合があります。失敗のメッセージが表示された場合、1 分程度時間を空けて、再度[確認]ボタンをクリックしてください。

12. [確認]ダイアログボックスが表示されますので、スイッチモジュール 0 の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



これで、スイッチモジュール 0 の管理 LAN ポートの設定が完了です。必要に応じて、手順 7 から 10 でスイッチモジュール 1 から 3 の設定を行ってください。

2.4.2 LAN スイッチモジュールの初期設定手順

新しいユーザ ID を作成します。

(1) ログイン

1. システムコンソール上でターミナルソフトウェアを起動し、「2.4.1 管理 LAN ポート設定」で設定した IP アドレスに接続してください。
2. システム管理者のユーザ ID とパスワードは、工場出荷時の初期値で設定されています。次の値を入力してください。

表 2-4 工場出荷時の初期値

項目	工場出荷時の初期値
ユーザ ID	operator
パスワード	未設定

ユーザ ID 「operator」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: operator
Copyright (c) 2008,2009 ALAXALA Networks Corporation. All rights reserved.
>
```

(2) 新ユーザ ID 作成

新しいユーザ ID 「xxxxxxx」を作成します。「xxxxxxx」は登録するユーザ ID を示します。

1. ユーザモードをシステム管理者モードに変更します。
「enable」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
> enable
```

2. ユーザ ID を追加します。
「adduser xxxxxxx」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
> enable  
# adduser xxxxxxx
```

3. 新しいユーザ ID にパスワードを設定します。
パスワードを入力し、「Enter」キーを押してください。

```
> enable  
# adduser xxxxxxx  
User(empty password) add done. Please setting password  
Password: *****
```

4. 確認のため、再度パスワードを入力し、「Enter」キーを押してください。

```
> enable  
# adduser xxxxxxx  
User(empty password) add done. Please setting password  
Password: *****  
Retype new password: *****
```

5. 一般ユーザモードに戻ります。「disable」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
> enable  
# adduser xxxxxxx  
User(empty password) add done. Please setting password  
Password: *****  
Retype new password: *****  
# disable>
```

 **参考** 新しいユーザ ID 「xxxxxxx」のユーザモードは、システム管理者ではなく一般ユーザモードになります。「enable」コマンドを使用すると、ユーザモードをシステム管理者モードに変更することができます。

(3) ログアウト

1. 「logout」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
> logout
```

(4) ユーザ ID 確認

作成したユーザ ID 「xxxxxxx」が正しいことを確認します。「xxxxxxx」は「(2) 新ユーザ ID 作成」で作成したユーザ ID を示します。

1. システムコンソール上でターミナルソフトウェアを起動してください。
2. 作成したユーザ ID を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: xxxxxxx
```

3. 設定したパスワードを入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: xxxxxxx  
Password : *****
```

4. ログインに成功すると次のように表示されますので、表示内容を確認してください。

```
login: xxxxxxxx
Password : *****
Copyright (c) 2005-2009 ALAXALANetworks Corporation. All rights reserved.
>
```

5. 「logout」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: xxxxxxxx
Password : *****
Copyright (c) 2005-2009 ALAXALANetworks Corporation. All rights reserved.
> logout
```

(5) マネージメントモジュール用ユーザ ID 作成

マネージメントモジュールから LAN スイッチモジュールを操作するためのユーザ ID 「yyyyyyyy」を作成します。「yyyyyyyy」は登録するユーザ ID を示します。

1. システムコンソール上でターミナルソフトウェアを起動してください。
2. システム管理者のユーザ ID 「operator」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: operator
```

3. ユーザモードをシステム管理者モードに変更します。
「enable」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: operator
Copyright (c) 2005-2009 ALAXALANetworks Corporation. All rights reserved.
> enable
```

4. ユーザ ID を追加します。
「adduser yyyyyyyy」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: operator
Copyright (c) 2005-2009 ALAXALANetworks Corporation. All rights reserved.
> enable
# adduser yyyyyyyy
```

5. マネージメントモジュール用ユーザ ID にパスワードを設定します。
パスワードを入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: operator
Copyright (c) 2005-2009 ALAXALANetworks Corporation. All rights reserved.
> enable
# adduser yyyyyyyy
User(empty password) add done. Please setting password
Password: *****
```

6. 確認のため、再度パスワードを入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: operator
Copyright (c) 2005-2009 ALAXALANetworks Corporation. All rights reserved.
> enable
# adduser yyyyyyyy
User(empty password) add done. Please setting password
Password: *****
Retype new password: *****
```

7. 一般ユーザモードに戻ります。
「disable」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: operator
Copyright (c) 2005-2009 ALAXALANetworks Corporation. All rights reserved.
> enable
# adduser yyyyyyyy
```



```
User(empty password) add done. Please setting password
Password: *****
Retype new password: *****
# disable
>
```

8. 「logout」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: operator
Copyright (c) 2005-2009 ALAXALANetworks Corporation. All rights reserved.
> enable
# adduser yyyyyyyy
User(empty password) add done. Please setting password
Password: *****
Retype new password: *****
# disable
> logout
```

(6) マネジメントモジュールへの認証設定

「(5) マネージメントモジュール用ユーザ ID 作成」で作成したユーザ ID を、マネジメントモジュールに認証設定します。

1. Web コンソールに接続します。

- Web ブラウザから Web コンソールを使用する場合

システムコンソールの Web ブラウザを起動して、Web ブラウザのアドレスバーにマネジメントモジュールの Web コンソールの URL (工場出荷時の場合は <https://192.168.0.1/>) を入力します。



表 2-5 工場出荷時の初期値

項目	工場出荷時の初期値
マネジメントモジュールの IP アドレス	192.168.0.1
Web コンソールの URL	https://192.168.0.1/

参考

- 上記の URL はデフォルト設定の例です。デフォルトで使用する場合、IP アドレスの入力のみでポート番号の入力は省略できます。マネジメントモジュールの IP アドレスおよびポート番号を変更した場合は、設定に合わせて URL を入力してください。
- URL のフォーマットは次のとおりです。
`http://< IP アドレス>:< ポート番号>` または
`https://< IP アドレス>:< ポート番号>`
- デフォルトのポート番号は次のとおりです。
`http : 80`
`https : 443`

- BS500 Web コンソール管理ツールを使用する場合

BS500 Web コンソール管理ツールを起動後、マネジメントモジュールの IP アドレスと https で接続するポート番号を入力して、「connect」ボタンをクリックします。

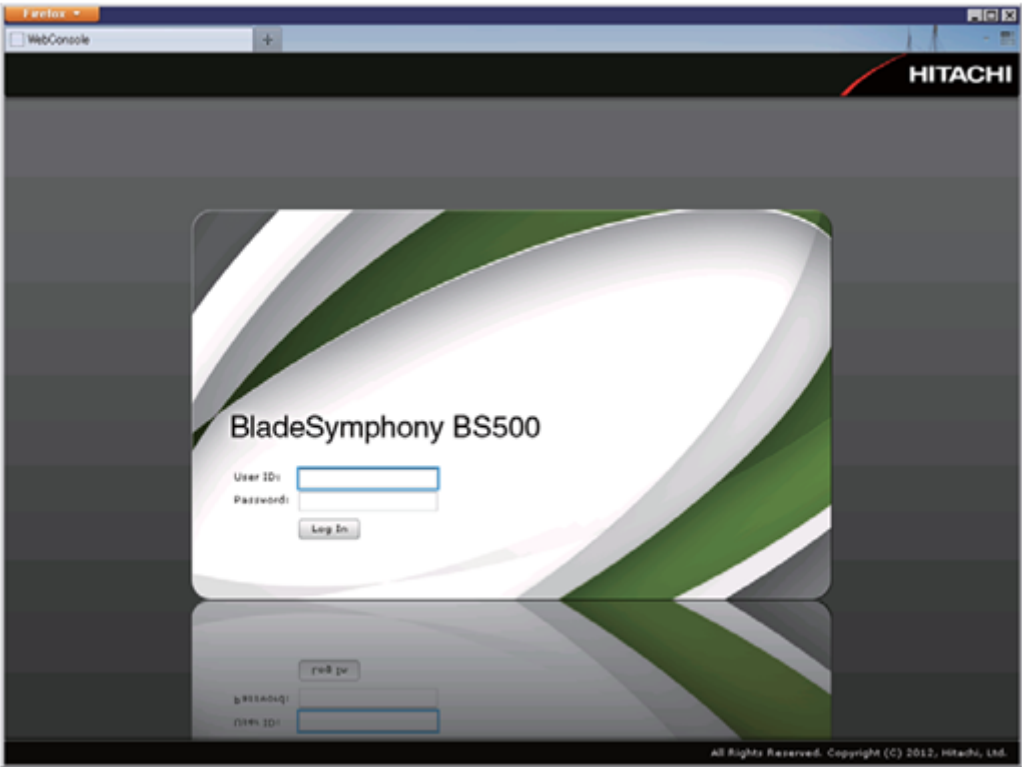


表 2-6 工場出荷時の初期値

項目	工場出荷時の初期値
マネジメントモジュールの IP アドレス	192.168.0.1
https で接続するポート番号	443
http で接続するポート番号	80

参考 BS500 Web コンソール管理ツールのバージョンが 1.0.4 以降の場合、http で接続するポート番号を入力し、http を選択することで、http で接続することができます。

2. 接続に成功すると、次のログイン画面が表示されます。



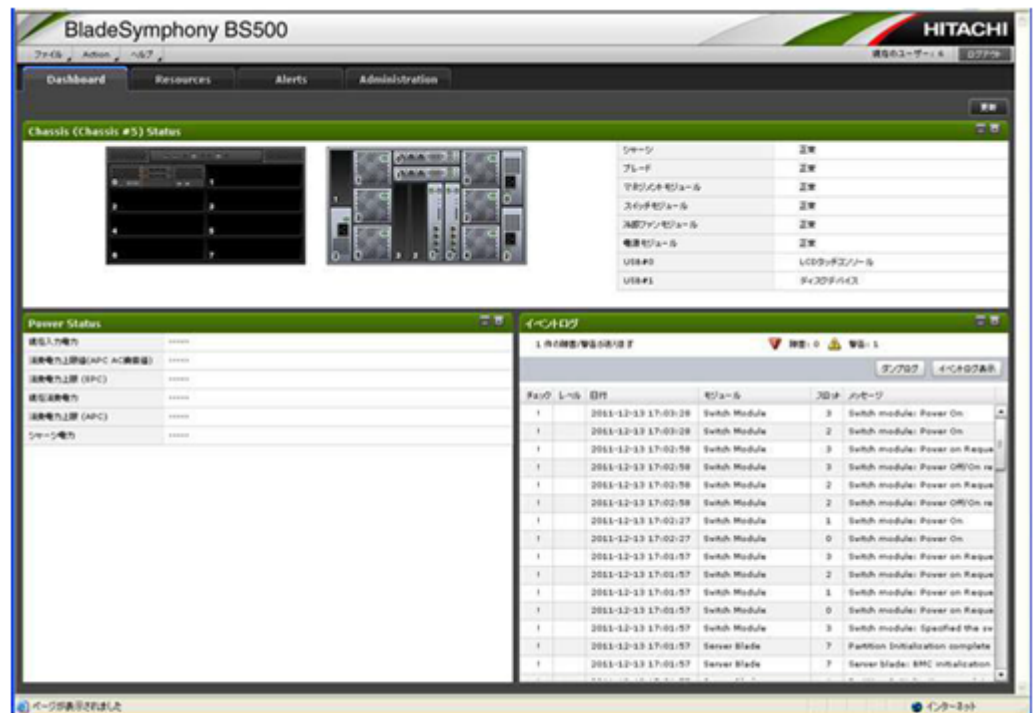
3. システム管理者のユーザ ID とパスワードは、工場出荷時の初期値で設定されています。

次の表に示す値を入力してください。

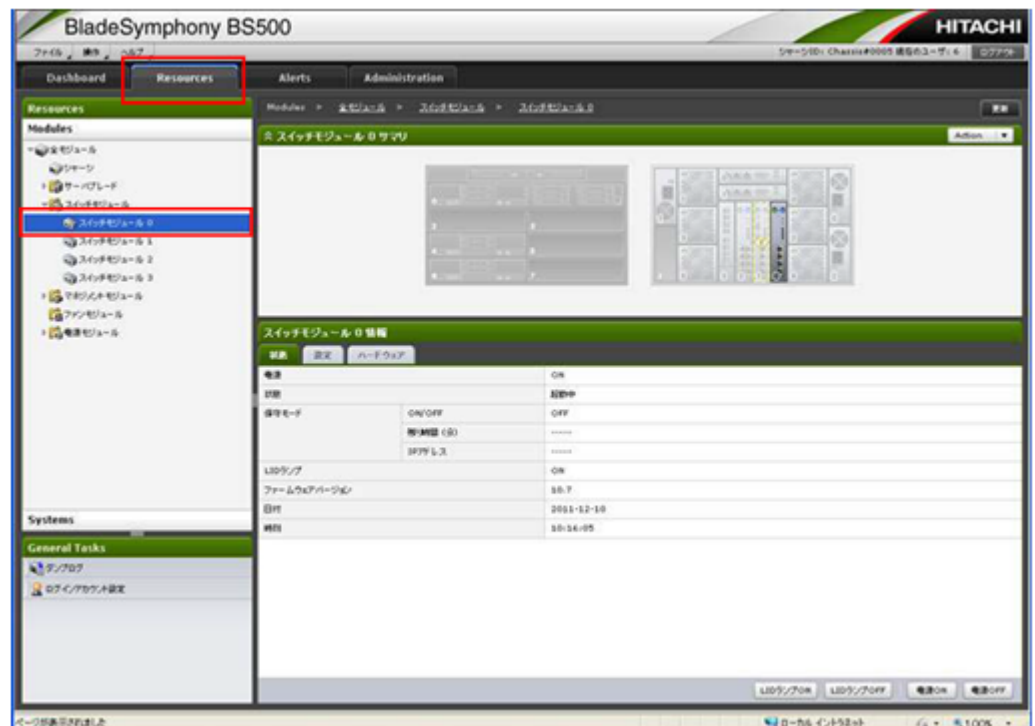
表 2-7 工場出荷時の初期値

項目	工場出荷時の初期値
ユーザ ID	administrator
パスワード	password

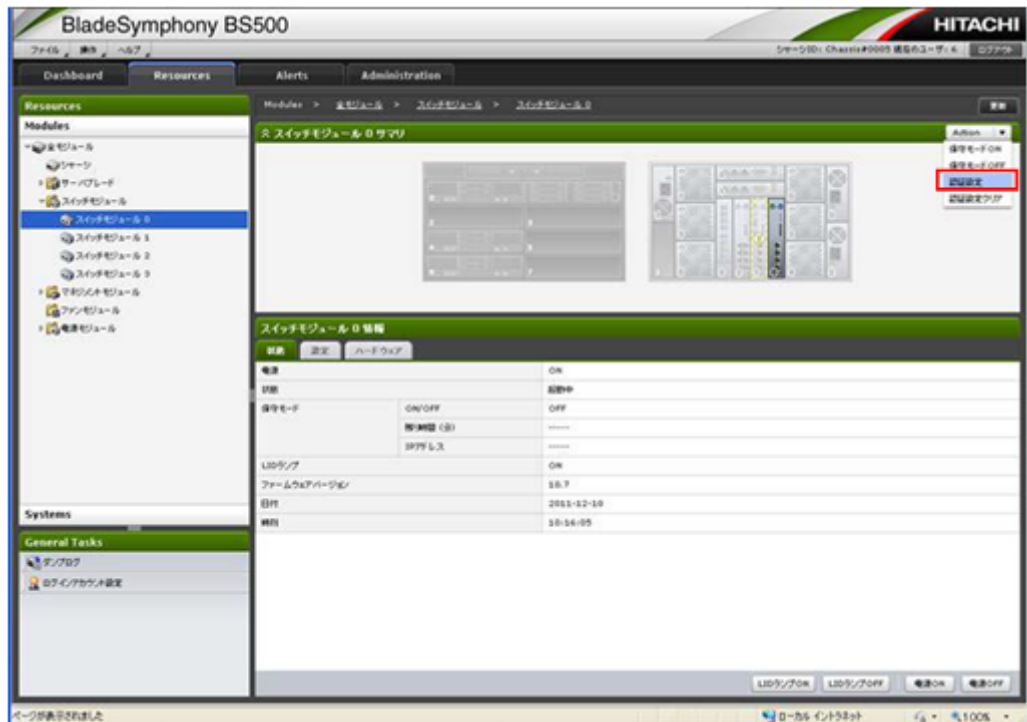
4. ログインに成功すると、次の Web コンソールメニュー画面が表示されます。



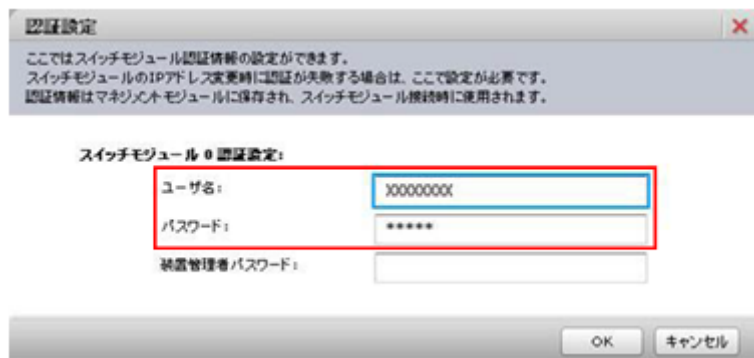
5. メニュー画面の [Resources] タブのメニューツリーから [Modules] - [スイッチモジュール] - [スイッチモジュール n] を選択してください。



6. [Action] ボタンをクリックし、プルダウンメニューから [認証設定] をクリックしてください。



7. [認証設定] ダイアログボックスの [ユーザ名] に「(5) マネージメントモジュール用ユーザ ID 作成」で作成したマネージメントモジュール用のユーザ ID, パスワードを入力し, [OK] ボタンをクリックしてください。



(7) 初期導入時のユーザ ID 「operator」の削除

初期導入時に設定されているユーザ ID 「operator」を削除します。

「(2) 新ユーザ ID 作成」で作成したユーザ ID 「xxxxxxx」でログインしてください。

1. システムコンソール上でターミナルソフトウェアを起動してください。
2. 作成したユーザ ID 「xxxxxxx」を入力し, 「Enter」キーを押してください。

```
login: xxxxxxxx
```

3. 作成したユーザ ID に設定したパスワード 「xxxxxxx」を入力し, 「Enter」キーを押してください。

```
login: xxxxxxxx
Password : xxxxxxxx
```

4. ユーザモードをシステム管理者モードに変更します。

「enable」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: xxxxxxxx
Password : *****
Copyright (c) 2005-2009 ALAXALANetworks Corporation. All rights reserved.
> enable
```

5. 初期導入時に設定されているユーザ ID「operator」を削除します。
「rmuser operator」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: xxxxxxxx
Password : *****
Copyright (c) 2005-2009 ALAXALANetworks Corporation. All rights reserved.
> enable
# rmuser operator
```

6. 「Delete user'operator'? (y/n):」を確認し、「Y」キーを押してください。

```
login: xxxxxxxx
Password : *****
Copyright (c) 2005-2009 ALAXALANetworks Corporation. All rights reserved.
> enable
# rmuser operator
# Delete user'operator'? (y/n): y
```

7. 一般ユーザモードに戻ります。
「disable」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: xxxxxxxx
Password : *****
Copyright (c) 2005-2009 ALAXALANetworks Corporation. All rights reserved.
> enable
# rmuser operator
# Delete user'operator'? (y/n): y
# disable
>
```

8. 「logout」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
login: xxxxxxxx
Password : *****
Copyright (c) 2005-2009 ALAXALANetworks Corporation. All rights reserved.
> enable
# rmuser operator
# Delete user'operator'? (y/n): y
# disable
> logout
```

2.4.3 Brocade 10Gb DCB スイッチモジュールの初期設定手順

システム管理者パスワードを変更します。

(1) ログイン

1. システムコンソール上でターミナルソフトウェアを起動し、「2.4.1 管理 LAN ポート設定」で設定した IP アドレスに接続してください。
2. システム管理者のユーザ ID とパスワードは、工場出荷時の初期値で設定されています。
次の値を入力してください。

表 2-8 工場出荷時の初期値

項目	工場出荷時の初期値
ユーザ ID	admin
パスワード	password

ユーザ ID 「admin」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
VDX6746 console login: admin
```

パスワード「password」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
VDX6746 console login: admin  
Password: password
```

(2) パスワード変更

ユーザ ID 「admin」のパスワードを変更します。

1. 「configure terminal」を入力して、グローバルコンフィギュレーションモードに移行します。

```
# configure terminal
```

2. 次のように入力し、「Enter」キーを押してください。

*****は新しいパスワードを示します。

```
VDX6746(config)# username admin password ***** role admin enable true
```

(3) ログアウト

1. 「logout」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
# logout
```

2.4.4 ファイバチャネルスイッチモジュールの初期設定手順

Brocade 8Gb ファイバチャネルスイッチモジュール、Brocade 8/16Gb ファイバチャネルスイッチモジュール、および Brocade 16Gb ファイバチャネルスイッチモジュールの初期設定手順について説明します。

システム管理者パスワードを変更して、新しいユーザ ID を作成します。

なお、ファイバチャネルスイッチモジュールの詳細な操作方法については、「内蔵ファイバチャネルスイッチ ユーザーズガイド」を参照してください。

(1) ログイン

1. システムコンソール上でターミナルソフトウェアを起動し、「2.4.1 管理 LAN ポート設定」で設定した IP アドレスに接続してください。
2. システム管理者のユーザ ID とパスワードは、工場出荷時の初期値で設定されています。
次の表に示す値を入力してください。

表 2-9 工場出荷時の初期値

項目	工場出荷時の初期値
ユーザ ID	admin
パスワード	password

ユーザ ID 「admin」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
switch console login: admin
```

パスワード「password」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
switch console login: admin
Password: *****
```

(2) パスワード変更

ユーザ ID 「admin」 のパスワードを変更します。

1. システム管理者のパスワードを変更できるようにします。
「passwd admin」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
switch:admin> passwd admin
```

2. パスワードを変更します。
いままでのパスワード「password」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
switch:admin> passwd admin
Changing password for admin
Enter old password: *****
```

3. 新しいパスワードを入力し、「Enter」キーを押してください。

```
switch:admin> passwd admin
Changing password for admin
Enter old password: *****
Enter new password: *****
```

4. 確認のため、再度パスワードを入力し、「Enter」キーを押してください。

```
switch:admin> passwd admin
Changing password for admin
Enter old password: *****
Enter new password: *****
Re-type new password: *****
```

(3) 新ユーザ ID 作成

新しいユーザ ID 「xxxxxxx」を作成します。「xxxxxxx」は登録するユーザ ID を示します。

1. 次のように入力し、「Enter」キーを押してください。

```
switch:admin> userconfig --add xxxxxxx -r admin
```

2. 新しいユーザ ID にパスワードを設定します。
パスワードを入力し、「Enter」キーを押してください。

```
switch:admin> userconfig --add xxxxxxx -r admin
Setting initial password for newuser
Enter new password: *****
```

3. 確認のため、再度パスワードを入力し、「Enter」キーを押してください。

```
switch:admin> userconfig --add xxxxxxx -r admin
Setting initial password for newuser
Enter new password: *****
Re-type new password: *****
```

(4) ログアウト

1. 「exit」を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
switch admin> exit
```

(5) ユーザ ID 確認

作成したユーザ ID 「xxxxxxx」が正しいことを確認します。「xxxxxxx」は「(3) 新ユーザ ID 作成」で作成したユーザ ID を示します。

1. システムコンソール上でターミナルソフトウェアを起動してください。
2. ユーザ ID を入力し、「Enter」キーを押してください。

```
switch console login: xxxxxxxx
```

設定したパスワードを入力し、「Enter」キーを押してください。

```
switch console login: xxxxxxxx  
Password : xxxxxxxx
```

3. ログインに成功すると次のように表示されますので、表示内容を確認してください。

```
switch console login: xxxxxxxx  
Password : xxxxxxxx  
switch:newuser>
```

4. 「logout」を入力し、「Enter」キーを押してください。

システム装置の起動・停止

この章では、システム装置を起動・停止する方法について説明します。

□ [3.1 起動方法](#)

□ [3.2 停止方法](#)

3.1 起動方法

ここでは、マネジメントモジュールとスイッチモジュールの起動方法について説明します。

マネジメントモジュールとスイッチモジュールは、サーバシャーシに AC 入力を供給すると、次に示す 順番で自動的に起動します。

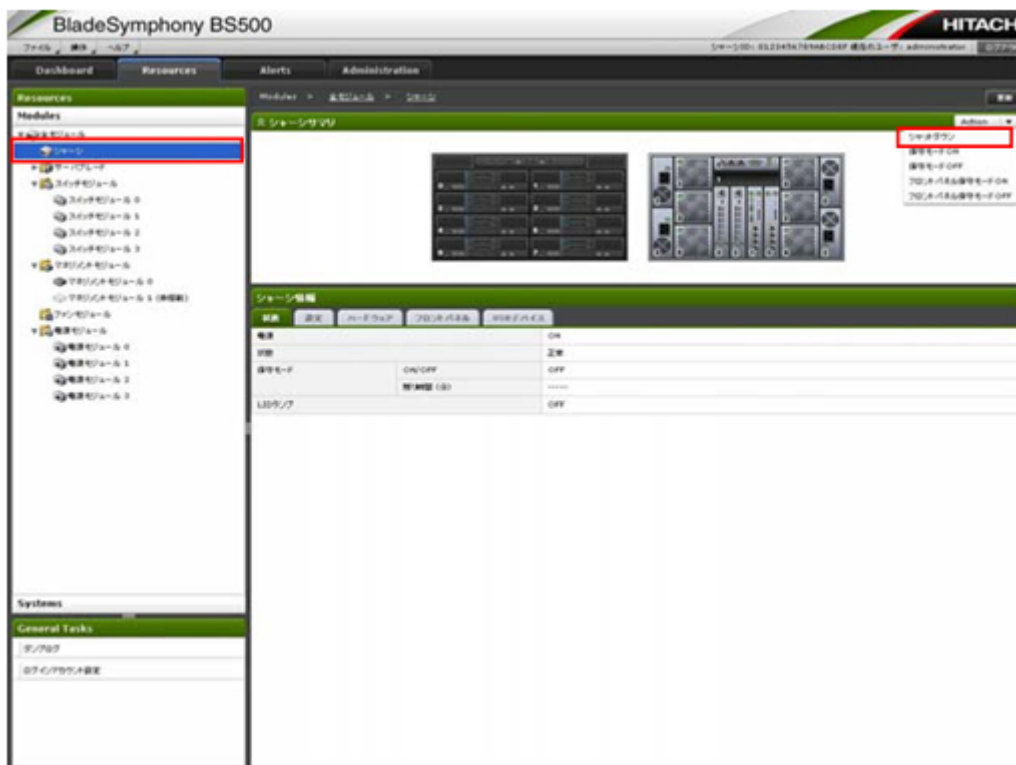
1. マネジメントモジュール
2. スイッチモジュール

3.2 停止方法

ここでは、システム装置の停止方法について説明します。

参考 システム装置を停止するため、Web コンソールを使用します。
ログイン方法については「[2.3 マネジメントモジュールの設定](#)」を参照してください。

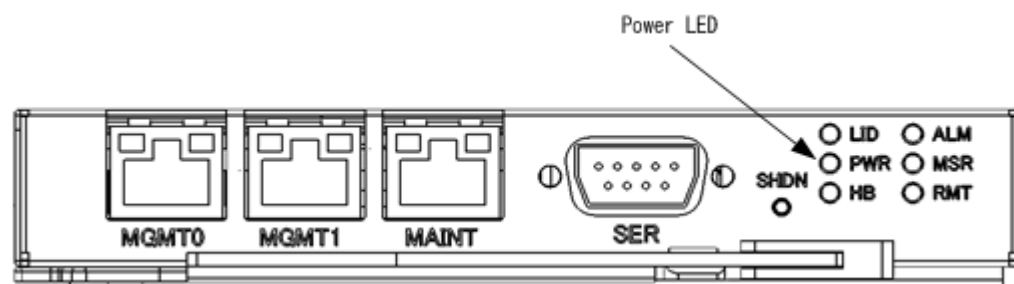
1. [Resources] タブのメニューツリーから [シャーシ] を選択してください。
次の画面を表示しますので、[Action] の[▼]ボタンで [シャットダウン] を選択してください。



2. 確認画面を表示しますので、[OK] をクリックしてください。



3. システム装置の電源が OFF します。マネジメントモジュールの Power LED が消灯していることを確認してください。



4. サーバシャーシに接続している、すべての電源ケーブルをコンセントから抜いてください。



参考 再びシステム装置をご使用になる場合は、電源ケーブルをコンセントに接続してください。マネジメントモジュールおよびスイッチモジュールが自動的に起動します。

